

# 中居町一丁目遺跡5

—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2022

株式会社シン技術コンサル  
高崎市教育委員会



## 例　　言

1. 本書は集合住宅建設に伴い実施された、「中居町一丁目遺跡第5次調査」(高崎市遺跡番号832)の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の所在地は、群馬県高崎市中居町1丁目8番地3号である。
3. 発掘調査は、令和3年11月1日から令和3年12月24日まで実施した。
4. 発掘調査および整理作業は高崎市教育委員会の指導・助言及び監督のもと、木村 隆氏から委託を受けた株式会社シン技術コンサルが実施した。
5. 調査体制は以下の通りである。

高崎市教育委員会

株式会社シン技術コンサル 菊池康一郎、北村和穂

6. 本書の編集は、菊池・坂本勝一（シン技術コンサル）が行った。執筆は、第I章を高崎市教育委員会が、それ以外を菊池が行った。遺物観察表は小林朋恵・倉石広太（シン技術コンサル）が作成した。
7. 本調査における図面・写真・出土遺物は、高崎市教育委員会で保管している。
8. 発掘調査参加者・整理作業参加者については、以下の通りである。(敬称略・五十音順)

<発掘作業参加者>

佐久間展男、高橋勇太、武井知司、榎金由現、萩原陽子、橋本芳男、芳川孝夫、吉田高男、和田 紲  
<整理作業参加者>

新井かおり、池田敏雄、伊藤澄代、岡田雄飛、尾崎志保里、小林麻衣子、佐藤久美子、佐藤美帆、鈴木幸見、  
鈴木澄江、須藤恭子、田島直美、茂木めぐみ、山田千鶴子、六反田達子

9. 発掘調査の実施および本書の刊行にあたり、下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。(敬称略)  
渋沢テクノ建設株式会社、山下工業株式会社

## 凡　例

1. 本書掲載の第1図は高崎市発行1/2,500都市計画基本図、第3図は国土地理院発行1/25,000地形図『高崎』を改変・使用した。
2. 遺構平面図に示した方位は座標北であり、水準線は標高を示す。座標については世界測地系に基づく平面直角座標第IX系を使用した。
3. 土層および遺物の色調は、『標準土色帖』(農林水産技術会議事務局・財团法人日本色彩研究所23版)による。
4. 本書における遺構種類の略号は、SI=竪穴建物、SX=竪穴状遺構・カマド・性格不明遺構、SD=溝、SK=土坑、P=ピットである。
5. 火山噴出物の表記は略号を用いた。  
浅間C軽石=As-C、浅間Bテフラ=As-B、榛名-二ツ岳渋川テフラ=Hr-FAである。
6. 遺物番号は遺構図・遺物実測図・観察表・写真図版において共通のものを用いた。
7. 写真図版における遺物写真的縮尺は、遺物実測図と同じである。
8. 遺構・遺物実測図において使用しているトーンの凡例は、以下の通りである。  
焼土範囲■■■ 炭化物範囲■■■ 赤彩範囲■■■
9. 遺物観察表における法量の単位は全てcm、重量はgで記載した。( )内の数値は推定地および残存地を示す。
10. 遺物観察表の含有物については、以下の略称を用いた。  
石：石英、長：長石、針：海綿状骨針、凝：凝灰岩、片：片岩、角：角閃石、金雲：金雲母、  
绢雲：绢雲母、チ：チャート、橙：橙色粒子、赤：赤色粒子

## 目 次

例 言

凡 例

目 次

第I章 調査に至る経緯 .....	1
第II章 調査の方法と経過 .....	2
第III章 遺跡の立地と環境 .....	3
第1節 地理的環境 .....	3
第2節 歴史的環境 .....	3
第IV章 基本層序 .....	5
第V章 検出された遺構と遺物 .....	6
第1節 壇穴建物跡 .....	6
第2節 壇穴状遺構・カマド .....	34
第3節 性格不明遺構 .....	38
第4節 溝 .....	39
第5節 土坑 .....	41
第6節 ピット .....	41
第7節 その他の遺物 .....	41
第VI章 まとめ .....	51
写真図版	
報告書抄録	

## 図版目次

第 1 図 調査区位置図 .....	1	第 14 図 SI6 出土遺物 (2) .....	19
第 2 図 調査区名称図 .....	2	第 15 図 SI7, SI7 出土遺物、SI8 (1) .....	20
第 3 図 周辺の遺跡 .....	4	第 16 図 SI8 (2) .....	21
第 4 図 基本土層柱状図 (S=1/20) .....	5	第 17 図 SI8 出土遺物 (1) .....	22
第 5 図 遺構全体図 .....	7	第 18 図 SI8 出土遺物 (2)、SI10 (1) .....	23
第 6 図 SI1, SI 出土遺物 .....	8	第 19 図 SI10 (2)、SI10 出土遺物 .....	24
第 7 図 SI2 .....	9	第 20 図 SI11 (1) .....	25
第 8 図 SI2 出土遺物、SI3 (1) .....	10	第 21 図 SI11 (2)、SI11 出土遺物、SI12 .....	26
第 9 図 SI3 (2)、SI3 出土遺物 .....	11	第 22 図 SI13, SI13 出土遺物、SI14 (1) .....	27
第 10 図 SI4, SI4 出土遺物 (1) .....	13	第 23 図 SI14 (2) .....	29
第 11 図 SI4 出土遺物 (2)、SI5 (1) .....	14	第 24 図 SI14 出土遺物 (1) .....	31
第 12 図 SI5 (2)、SI5 出土遺物、SI6 (1) .....	15	第 25 図 SI14 出土遺物 (2) .....	32
第 13 図 SI6 (2)、SI6 出土遺物 (1) .....	16	第 26 図 SI15、SI15 出土遺物 .....	33

第 27 図 SI16	35	第 35 図 P21 ~ 31	44
第 28 図 SX3・4、SX4 出土遺物	36	第 36 図 その他の遺物	45
第 29 図 SX5・7、SX7 出土遺物（1）	37	第 37 図 主要出土遺物（古墳時代前期中心）	51
第 30 図 SX7 出土遺物（2）	38	第 38 図 主要出土遺物（古墳時代中期中心）	52
第 31 図 SX1・2・6、SX6 出土遺物	39	第 39 図 高崎駅東側土地利用図	53
第 32 図 SD1 ~ 3、SD2 出土遺物、SK2・3	40	第 40 図 上中居町・中居町一丁目 周辺遺跡の内容	53
第 33 図 SK4 ~ 9、P1 ~ 4	42		
第 34 図 P5 ~ 20	43		

## 表目次

第 1 表 周辺の遺跡	4	第 5 表 遺物観察表（3）	48
第 2 表 ピット観察表	45	第 6 表 遺物観察表（4）	49
第 3 表 遺物観察表（1）	46	第 7 表 遺物観察表（5）	50
第 4 表 遺物観察表（2）	47		

## 写真目次

PL.1	SI11 挖方完掘（東から）
1・2 区遠景（東から）	SI12 全景（北から）
3 区全景（東から）	SI13 遺物（No.54）出土状況（北東から） SI13 全景（南東から）
PL.2	SI14-SK1 遺物出土状況（東から）
SI1 全景（北西から）	SI14 遺物出土状況（東から）
SI2 全景（北から）	SI14 カマド全景（北東から）
SI3 全景（南から）	
SI4 挖方完掘（西から）	PL.5
SI5 全景（東から）	SI14 全景（北東から）
SI6 遺物（No.20）出土状況（北東から）	SI14-SK3 遺物出土状況（南から）
SI6（2 区 -1T 内）炭化物検出状況（東から）	SI15 遺物出土状況（南から）
PL.3	SI15 全景（南東から）
SI6（1 区部分）炭化物検出状況（西から）	SX3 完掘（西から）
SI6 炭化物検出状況（南西から）	SX4 検出状況（北東から）
SI6 完掘（垂直）	SX4 全景（北西から）
SI7 全景（南から）	SX5 完掘（南西から）
SI8 カマド全景（東から）	PL.6
SI8 挖方完掘（東から）	SX7 遺物（No.88）出土状況（北から）
SI10 全景（北東から）	SX7 完掘（北東から）
PL.4	SX1 完掘（北東から）
SI11 焼土範囲（北から）	SX2 完掘（南東から） SX6 セクション（北から）

SD2 完掘（東から）	PL.11
SD3 完掘（北から）	SI8 出土遺物（2）
SK2 完掘（東から）	PL.12
PL.7	SI10 出土遺物
SK3 完掘（南から）	SI11 出土遺物
SK8 完掘（西から）	SI13 出土遺物
SK9 完掘（東から）	SI14 出土遺物（1）
P3 完掘（北から）	PL.13
P7 遺物出土状況（西から）	SI14 出土遺物（2）
P10 セクション（北から）	PL.14
P14 完掘（南東から）	SI14 出土遺物（3）
P24・25・30 完掘（東から）	SI15 出土遺物
PL.8	SX4 出土遺物
SI1 出土遺物	PL.15
SI2 出土遺物	SX7 出土遺物
SI3 出土遺物	PL.16
SI4 出土遺物（1）	SX6 出土遺物
PL.9	SD2 出土遺物
SI4 出土遺物（2）	その他の遺物
SI5 出土遺物	
SI6 出土遺物（1）	
PL.10	
SI6 出土遺物（2）	
SI7 出土遺物	
SI8 出土遺物（1）	



## 第Ⅰ章 調査に至る経緯

令和3年6月上旬、事業者である木村隆氏から、高崎市中居町一丁目において計画している集合住宅建設工事に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地である32H12遺跡・中居32遺跡内に所在するため、工事前に文化財保護法第93条第1項の規定による届出が必要であることを伝えた。

令和3年7月14日、市教委に第93条第1項の届出、埋蔵文化財確認調査申請書が提出され、令和3年8月19日に確認調査を実施した。その結果、古墳時代等の集落構造を確認した。この結果をもとに事業者と市教委で協議したが、建物工事部分について現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお、遺跡名については「中居町一丁目遺跡第5次調査」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に準じ、令和3年10月14日に事業者：木村隆氏・民間調査機関：株式会社シン技術コンサル北関東支店・市教委での三者協定を締結、事業者と民間調査機関の間で発掘調査の契約を締結し、調査実施にあたっては市教委が指導・監督することとなった。



第1図 調査区位置図

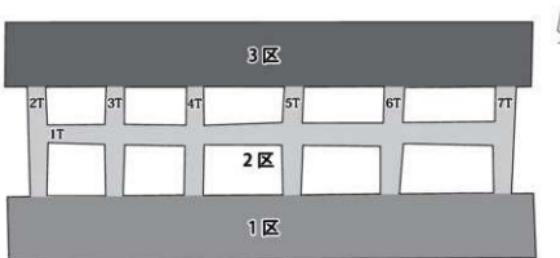
## 第Ⅱ章 調査の方法と経過

今回の発掘調査は、基礎工事が遺構面にまでおよぶ範囲を調査対象とした。調査区は、 $3.5 \times 29\text{ m}$ の調査区2ヶ所と、その間の幅約1mのトレーニング状の調査区に分かれる。調査の進捗上、南から1区、2区、3区と呼称し、さらに2区のうち東西方向のトレーニングを1T、南北方向のトレーニングを西から2T～7Tと呼称した。各調査区の面積は、1・3区が各々 $101.5\text{ m}^2$ 、2区が $46\text{ m}^2$ 、合計 $249\text{ m}^2$ である。廃土置き場の関係から、1・2区を先行して調査し、その後1・2区を埋め戻し、3区を調査した。

表土掘削は重機によって遺構確認面付近まで掘り下げ、その後ジョレンなどを用いて、人力で包含層掘削・遺構検出を行った。当初黒褐色土（V層）上面が遺構確認面であると考えていたが、調査していく中でV層はほとんど遺存していないことが判明し、高崎泥流層の上位に堆積する漸移層（VI層）上面を遺構確認面として調査を進めた。竪穴建物跡などの古墳時代の遺構が多数重複して検出され、移植ゴテなどを用いて遺構掘削を行った。作図作業は、トータルステーションを用いた器械測量と写真測量を併用した。写真撮影は、 $35\text{mm}$ モノクロネガ・同カラーリバーサルの2種類のフィルムを使用し、2,020万画素のデジタル一眼レフカメラを併用した。遺構完掘後、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行った。調査終了後は高崎市教育委員会の終了確認検査を受け、器材撤収を行い、現地調査を終了した。

令和3年

- |           |                                    |
|-----------|------------------------------------|
| 11月1・2日   | 重機による1・2区の表土掘削。仮設トイレ設置。            |
| 11月4日     | プレハブ搬入。                            |
| 11月5～26日  | 1・2区遺構調査。                          |
| 11月29日    | 1・2区空中写真撮影。高崎市教育委員会による1・2区の終了確認検査。 |
| 11月30日    | 1・2区埋め戻し。3区表土掘削開始。                 |
| 12月1日     | 3区表土掘削終了。重機搬出。                     |
| 12月2～20日  | 3区遺構調査。                            |
| 12月21日    | 3区空中写真撮影。高崎市教育委員会による3区の終了確認検査。     |
| 12月22～24日 | 器材搬出。プレハブ・仮設トイレ搬出。現地調査終了。          |



第2図 調査区名称図

## 第Ⅲ章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

高崎市は榛名山、妙義山をはじめとする群馬県西部の山々を背にした、関東平野の北西端に位置する。高崎市の地形をみると、烏川右岸には八幡台地・觀音山丘陵が、左岸には相馬が原扇状地末端の沖積地が、その南方には前橋台地が広がっている。前橋台地は、約2.2万年前の浅間山の噴火に伴う山体崩壊による前橋泥流堆積物によって基盤が構成されている。台地内には、井野川流域に段丘と谷底平野で構成される幅15kmほどの低地部が北西から南東方向に形成されており、この井野川低地帯を境に西側は高崎台地と呼ばれている。高崎台地は前述の前橋泥流堆積物を基盤として、その上位に高崎泥流と呼ばれる泥流が堆積して形成される。

中居町一丁目遺跡は、井野川低地帯の右岸縁辺部に位置しており、周辺は小河川の旧流路によって樹枝状の低湿地と微高地が複雑に入り組んだ地形が形成されている。遺跡の北約100mには灌漑用水路が東流しており、これより北側は井野川低地帯である。井野川低地帯は宅地化が急速に進んでいるが、所々に水田が残っており、旧地形を伺い知ることができる。

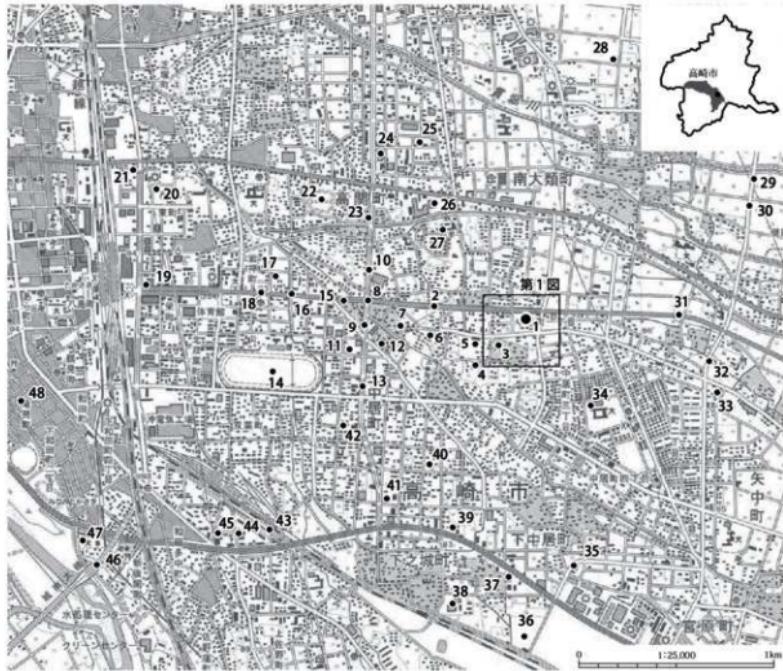
### 第2節 歴史的環境

本遺跡周辺には、旧石器時代の遺跡はこれまで確認されていない。縄文時代の遺跡は、觀音山丘陵・八幡台地・井野川流域に多く分布している。本遺跡周辺では高闘村前遺跡(10)、城南小学校校庭遺跡(47)、下中居条里遺跡(35)、中居町一丁目遺跡第3次(第1図)などが調査されており、下中居条里遺跡や中居町一丁目遺跡第3次において中期後半の竪穴建物跡などが確認されているものの、大半の遺跡は中～後期の土器や石器が出土する程度で不明な点が多い。

弥生時代の遺跡は、烏川左岸段丘上には土器式型の標式遺跡である竜見町遺跡(48)や城南小学校校庭遺跡が、高崎台地上の微高地には高崎競馬場遺跡(14)、高闘村前遺跡、高闘堰村遺跡(23)などが所在する。近年高崎競馬場遺跡において大規模な発掘調査が行われ、以前から存在が知られていた中期後半～末の環濠集落が詳細に調査されているほか、礎床木棺墓などからなる墓域が確認されている。

古墳時代になると、遺跡数は増加する。本遺跡周辺では上中居遺跡群(2)、中居町一丁目遺跡(第1図)、上中居宇名室遺跡2(5)などで前期～後期の竪穴建物跡などが確認されている。中居宇名室遺跡(4)・中居宇名室遺跡2などでは後期～終末期の用水路が確認され、上中居辻薬師遺跡5(7)の古墳時代中期の溝からは勾玉・管玉とともに破鏡が出土している。古墳は市域全体では烏川左岸や船沢川流域、井野川右岸に多く見られる。本遺跡周辺では、本遺跡南西約200mの諏訪神社内に稻荷塚古墳(3)が、やや離れるが東方には前期の柴崎蟹沢古墳(消滅)や柴崎浅間山古墳の存在が知られている。また越後塚古墳(40)は、完全に削平されてしまっているものの、前方後円墳であったことが推定されている。古墳以外では中居町一丁目遺跡や上中居遺跡群、上中居辻薬師II遺跡(8)、宿大類村西遺跡(28)などにおいて古墳時代前期の方形周溝墓が、中居町一丁目遺跡第4次(第1図)において前期の前方後方形周溝墓が確認されている。

奈良・平安時代になると条里制の導入によって土地割りの整備が進み、本遺跡周辺の低湿地でもAs-Bに覆われた水田跡が多く確認されている。集落遺跡の分布は東方の柴崎地域へと移行するようで、本遺跡周辺では中居町一丁目遺跡や上中居辻薬師遺跡4(6)などで竪穴建物跡が散見されるのみである。



第3図 周辺の遺跡

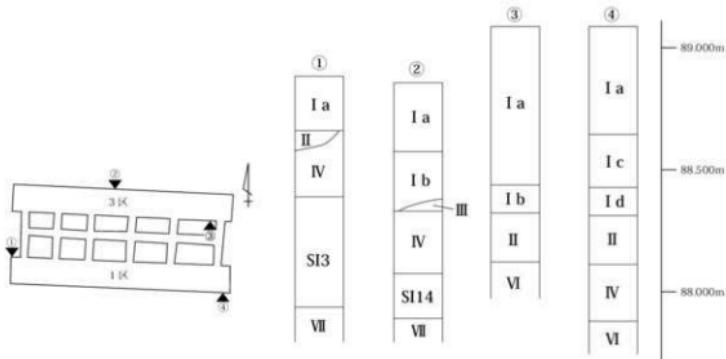
第1表 周辺の遺跡

No	遺跡名	主な時代・遺構	No	遺跡名	主な時代・遺構
1	中居町一丁目遺跡 5	古墳往居	25	高開塚田遺跡	平安水田
2	上中創遺跡群	縄文、古墳往居・周溝墓、平安水田など	26	高開車冲II遺跡	平安水田
3	植荷塚古墳	古墳(?)	27	岡久保遺跡	平安水田
4	上中居字下室遺跡	古墳水田	28	宿人類村西遺跡	縄文、弥生住居、古墳往居・方形周溝墓ほか
5	上中居字下室遺跡 2	古墳往居・井戸、土坑。近世土坑など	29	南大塚東冲遺跡	弥生方形周溝墓、平安水田
6	上中居辻瀬遺跡 4	古墳往居・土坑、平安住居	30	南大塚荷鉢遺跡	古墳、平安水田、平安住居
7	上中居辻瀬遺跡 5	古墳溝、平安溝など	31	柴岭南大塚遺跡	古墳溝、平安住居・水田
8	上中居辻瀬II遺跡	古墳往居・方形周溝墓ほか	32	柴山西涌・吹子西遺跡	古墳方形周溝墓、平安住居
9	上中居辻瀬の遺跡	平安水田、中世屋敷など	33	鬼子天王前遺跡	平安水田・溝ほか
10	高開村前遺跡	縄文、弥生住居、古墳往居など	34	乞之原古墳	埴形不明
11	上中居西屋敷遺跡	平安水田	35	下中居条里遺跡	縄文住居、古墳往居・水田、平安住居・水田ほか
12	上中居西屋敷II遺跡	中世世溝・井戸ほか	36	下之城村東1・2遺跡	平安水田
13	上中居西屋敷III遺跡	平安水田、平安以降溝	37	下之城条里遺跡	平安水田、中世獨立ほか
14	高崎競馬場遺跡	弥生環濠集落・墓、平安水田ほか	38	下之城村西II遺跡	平安水田
15	上中居早道遺跡	平安～近世溝・土坑、井戸ほか	39	下之城村北II遺跡	平安水田
16	岩押遺跡	平安水田、近世畠	40	越後塙古墳	前方後円墳
17	岩押II遺跡	平安水田	41	中居島築堤遺跡	平安水田
18	岩押I遺跡	平安水田	42	中居荒神1・II遺跡	平安水田
19	柴町I遺跡	平安水田、近世溝	43	双葉町I遺跡	古墳往居・溝、平安水田、近世溝ほか
20	柴町II遺跡	弥生溝、古墳・平安・近世水田	44	上佐野桶越遺跡	平安水田ほか
21	東町IV遺跡	弥生溝・土坑、平安水田	45	相地多中遺跡	平安水田
22	高開高根遺跡	古墳往居、平安住居・水田、中世溝ほか	46	新作園寺庭遺跡	古墳住居、古代住居
23	高開麻塚遺跡	弥生溝、中世世溝・孤立	47	城山小学校校庭遺跡	縄文、弥生住居
24	高開北沖遺跡	平安水田	48	竜丘町遺跡	弥生

## 第IV章 基本層序

本遺跡では、I～VII層の基本土層を確認した。I層は表土で、4層に細分できた。I a層は表層上で全域に広がり、中央から東側にかけては部分的に礫・コンクリート破片などを多く含む。I b層は綿まりの非常に強い褐色土と黒褐色土からなる現代の整地層で、調査区の東側で確認された。I c層・I d層は1区東端でのみ確認された土層である。調査区中央から東側にかけてI層の層厚が厚くなっている。近現代に土木工事が複数回行われたと考えられる。ちなみに1区中央で確認された大形の擾乱はI a層直下から掘り込まれており、VII層土を主体とする明黄褐色土で埋められていた。II層はAs-Bを少量含む黒褐色土である。III層はHr-FA泥流層で、部分的に堆積が確認できた。IV層は白色軽石を微量含む黒褐色土で、遺物包含層である。古墳時代の遺構は、この土層の下で確認された。V層はAs-C軽石を微量含む黒褐色土で、本来は遺構確認面であったと思われるが、3区のごく一部でしか確認できなかった。VI層は褐色砂質土で、今回の調査における遺構確認面である。VII層は高崎泥流層である。

- I a層 黒褐色土（10YR3/2）表層土。  
I b層 褐色土（10YR5/1）と黒褐色土（10YR2/2）からなる整地層。綿まり強、粘性弱。  
I c層 黒褐色土（10YR3/2）綿まりやや強、粘性やや弱。  
I d層 にぶい黄橙色砂質土（10YR6/3）  
II層 黒褐色土（10YR3/2）綿まりやや強、粘性やや弱。As-Bを少量含む。  
III層 明黄褐色シルト（10YR6/6）Hr-FA泥流層。  
IV層 黒褐色土（10YR3/2）綿まりやや強、粘性やや弱。白色軽石・褐色土ブロックを微量含む。  
V層 黒褐色土（10YR3/2）綿まりやや強、粘性やや弱。As-C軽石を微量含む。  
VI層 褐色土（10YR4/1）綿まりやや弱、粘性弱。黒褐色土・明黄褐色砂質土を多量含む。  
VII層 明黄褐色土（10YR7/6）高崎泥流層。綿まりやや強、粘性やや弱。礫を少量含む。



第4図 基本土層柱状図 (S=1/20)

## 第V章 検出された遺構と遺物

本遺跡で検出された遺構は、竪穴建物跡 15 軒、竪穴状遺構 3 基、カマド 1 基、性格不明遺構 3 基、溝 3 条、土坑 8 基、ピット 31 基である。竪穴状遺構は竪穴建物跡の可能性が高いが、検出範囲が狭小であったり、床面施設が確認できなかったりしたため、建物跡と認定しなかったものである。便宜的にではあるが、遺構略称は性格不明遺構と同様に SX を用いた。遺構確認面は、SD1 と SK3 が IV 層上面から掘り込まれている以外は全て VI 層上面であり、大半の遺構は遺物包含層である IV 層に被覆されている。

### 第 1 節 竪穴建物跡

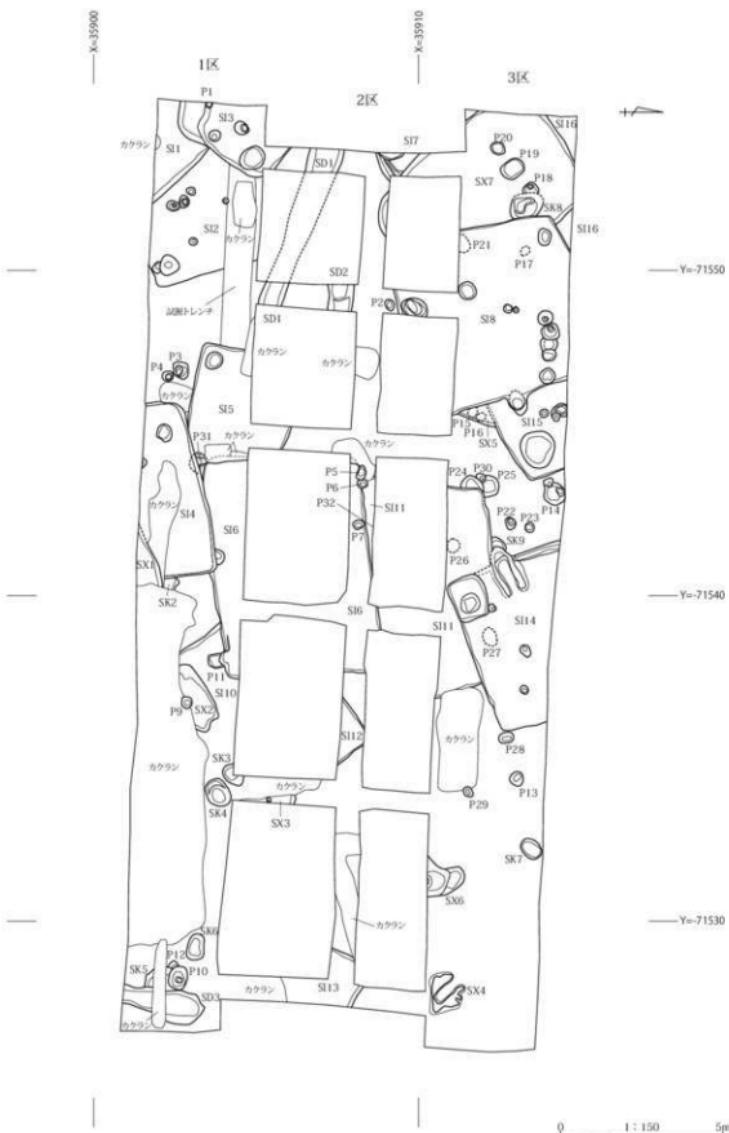
本遺跡で、確認された竪穴建物跡は 15 軒である。SI9 は調査中に SI6 と同一遺構であることが判明したため、欠番となっている。SI16 は、後述のとおり 3 区北壁土層断面でのみ確認された竪穴建物跡である。

#### SI1 (第 6 図、PL.2・8)

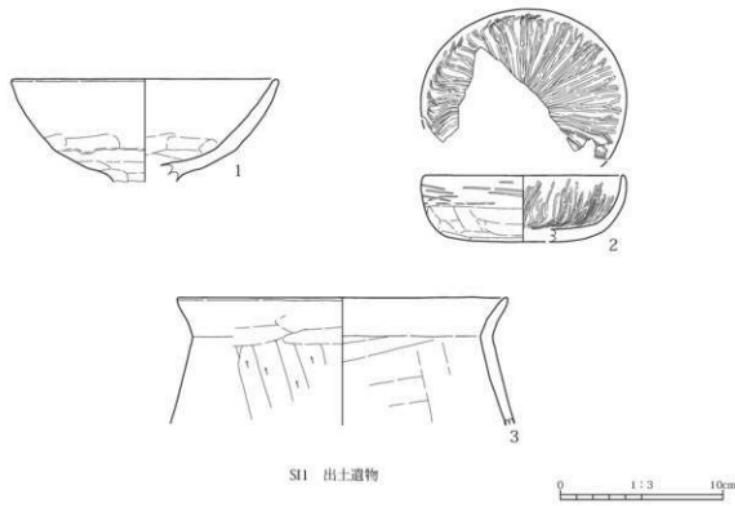
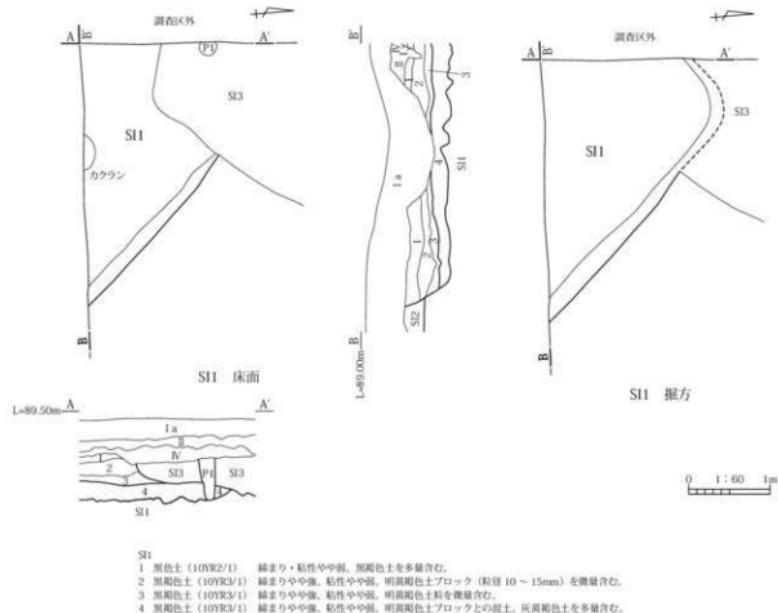
位 置	1 区の西端で検出された。SI3 より古く、SI2 より新しい。
形狀・規模	建物跡の北東壁部分のみが確認され、北西壁は SI3 によって破壊されている。主軸方向は北東壁を基準に N-43°-W を示し、平面形は方形ないし長方形と推測される。検出長は北東辺が 2.47 m を測る。南壁の土層断面では深さ 0.40 m、掘方の深さ 0.14 ~ 0.24 m を測る。周溝は確認されなかった。
柱 穴	確認されなかった。
カ マ ド	確認されなかった。
貯 藏 穴	確認されなかった。
遺 物	土師器などが出土し、そのうち高环・环・甕を図示した。
時 期	遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代中期と考えられる。

#### SI2 (第 7・8 図、PL.2・8)

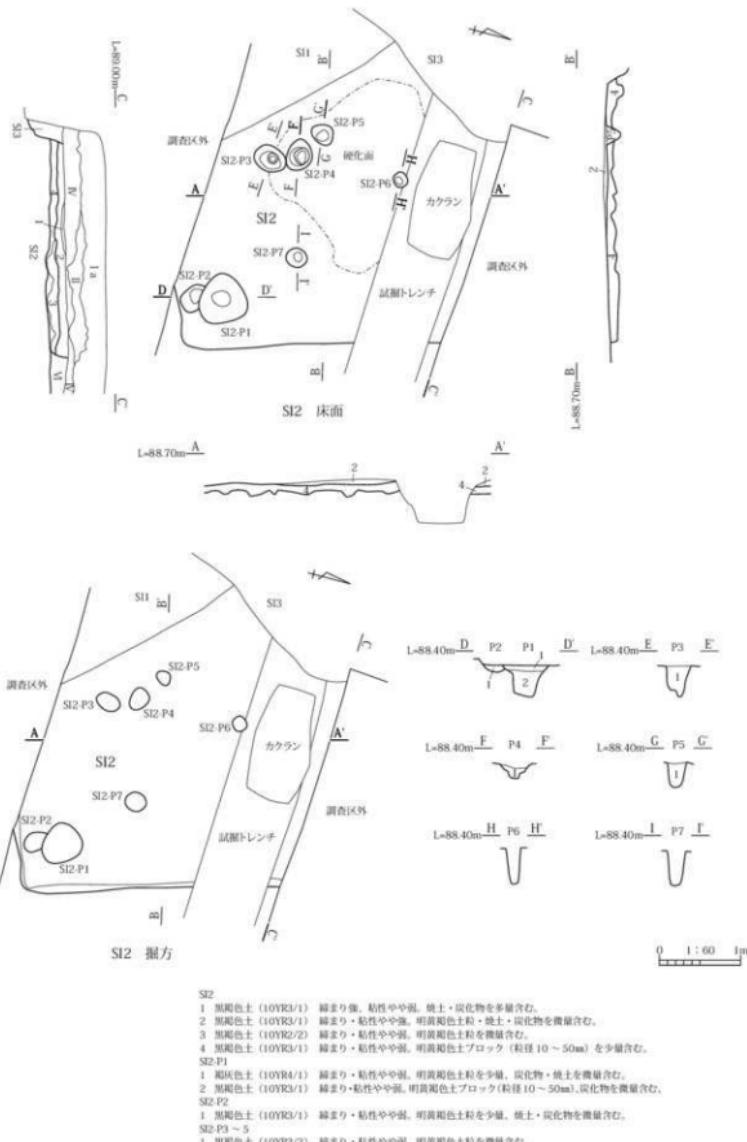
位 置	1 区の西側で検出された。SI1・3 より古い。遺構確認段階で、床面が検出された状態であった。
形狀・規模	建物跡の東壁から南東隅が確認された。主軸方向は東壁を基準に N-15°-W を示し、平面形は方形ないし長方形と推測される。検出長は東辺が 3.20 m、南辺が 0.72 m を測る。北壁の土層断面では深さ 0.10 m、掘方の深さ 0.12 ~ 0.16 m を測る。想定される建物範囲の中央付近で硬化面が検出されたほか、北壁断面の 1 層がかなり硬化しており、床の貼り替えが行われた可能性がある。
柱 穴	7 基確認された。P1 ~ 5 を 4 層中、P6・7 を 4 層下で確認したが、本来は全て床面上の施設と考えられる。位置・規模から、P1 は主柱穴の可能性がある。
カ マ ド	確認されなかった。
貯 藏 穴	確認されなかった。
遺 物	土師器などが出土し、そのうち甕を図示した。
時 期	遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代中期と考えられる。



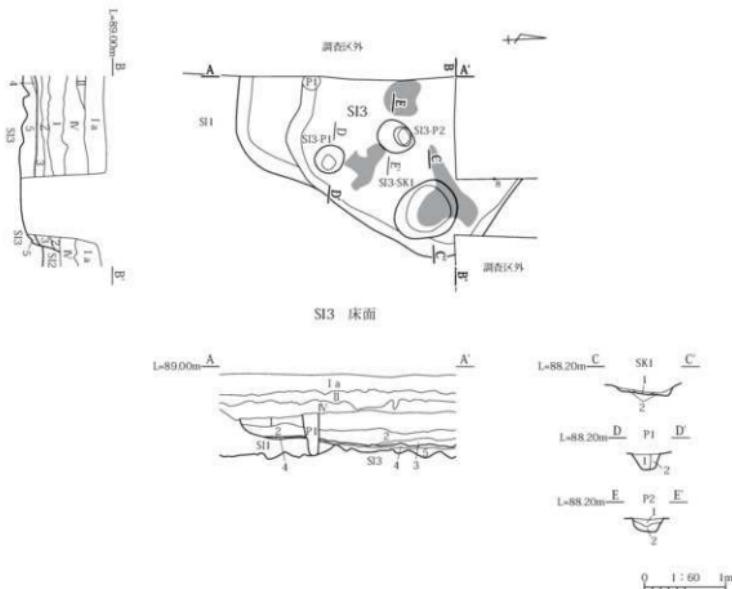
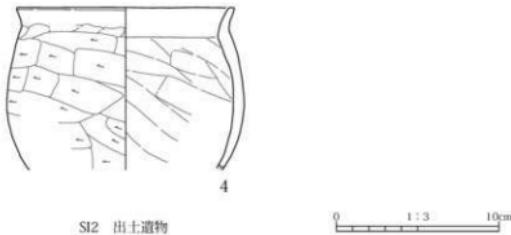
第5図 遺構全体図



第6図 SI1、SI 出土遺物

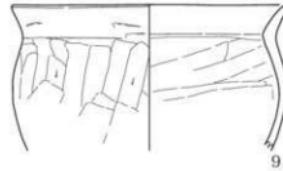
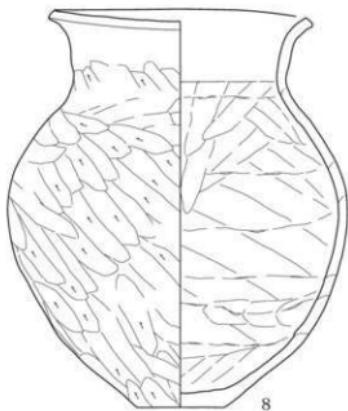
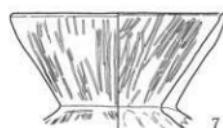
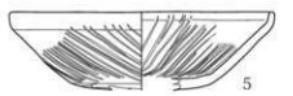
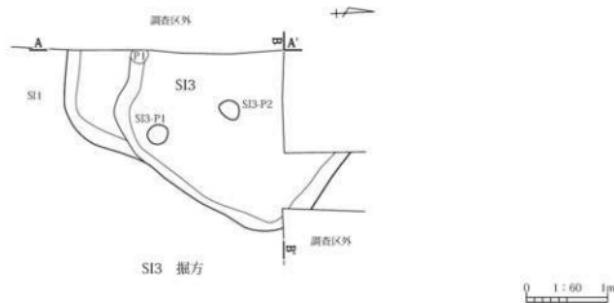


第7図 SI2



- SI3
- 1 黄褐色土 (10YR2/2)
  - 2 黑褐色土 (10YR3/2)
  - 3 黑褐色土 (10YR2/2)
  - 4 黑色土 (10YR2/1)
  - 5 明黄褐色土 (10YR6/6)
  - SK1
  - 1 黄色土 (5YR6/6)
  - 2 黑褐色土 (10YR2/2)
  - SI3-P1
  - 1 黑褐色土 (10YR2/1)
  - 2 黑褐色土 (10YR3/1)
  - SI3-P2
  - 1 黑褐色土 (10YR3/1)
  - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2)
- 繊維あり・粘性やや弱。明黄褐色土粒を少量。埴土微量含む。
- 繊維あり・粘性やや弱。明黄褐色土粒ブロック (粒径 10 ~ 50mm) を多量。埴土・炭化物を微量含む。
- 繊維あり・粘性やや弱。明黄褐色土粒を微量含む。
- 繊維あり・粘性やや強。埴土・炭化物を少量含む。
- 繊維あり・粘性やや強。プロック主体。黑褐色土を多量含む。
- 繊維ありやや強。粘性弱。埴土主体。下部に炭化物を微量含む。
- 繊維あり・粘性やや弱。明黄褐色土粒を微量含む。
- 繊維ありやや弱。粘性やや強。明黄褐色土粒を少量含む。
- 繊維ありやや強。粘性やや弱。灰黄褐色土・埴土を微量含む。
- 繊維ありやや強。粘性やや弱。黑褐色土を少量含む。

第8図 SI2出土遺物、SI3 (1)



SI3 出土遺物

0 1:3 10cm

第9図 SI3 (2)、SI3 出土遺物

#### SI3 (第8・9図、PL2・8)

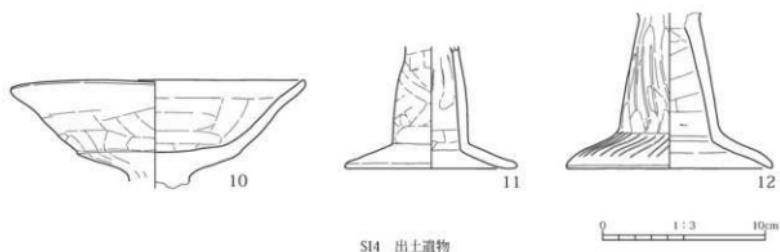
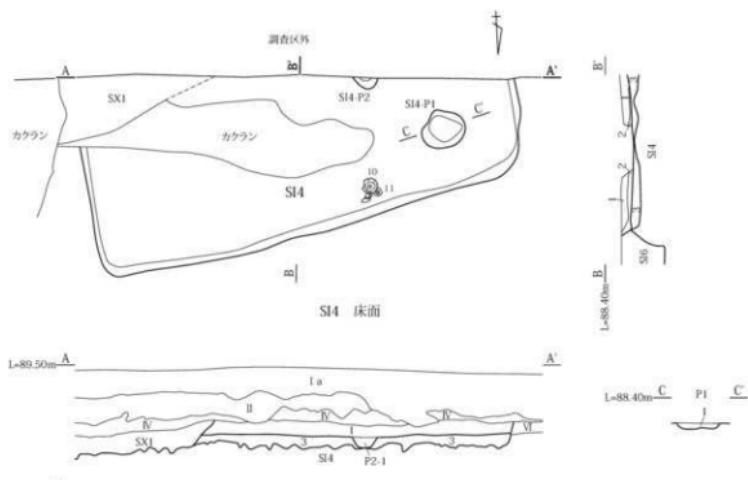
位 置	1区の西端で検出され、一部が2区-2Tにかかる。P1より古く、SI1・2より新しい。
形状・規模	建物跡の東側が確認された。主軸方向は東壁を基準にN-32°-Eを示し、平面形は隅丸方形ないし隅丸長方形と推測される。検出長は北辺が1.30m、東辺が3.00m、南辺が0.86mを測り、確認面から0.23～0.40m掘り下げたところで床面が検出され、掘方の深さは0.02～0.16mほどである。周溝は確認されなかった。床面は南側が一段高くなっているが、床面が低くなっている部分では焼土・炭化物が多く検出されており、焼失建物と考えられる。
柱 穴	2基確認された。
カ マ ド	確認されなかった。
貯 藏 穴	確認されなかった。北東隅でSK1が確認されたが、浅い掘り込みであったため、貯藏穴ではないと考えられる。
遺 物	土師器などが出土し、そのうち高環・壺・壺・甕を図示した。
時 期	遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代中期と考えられる。

#### SI4 (第10・11図、PL2・8・9)

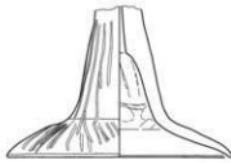
位 置	1区の中央で検出され、南北は調査区外に位置する。SX1より古く、SI5・6、SK2より新しい。
形状・規模	建物跡の北半が確認された。主軸方向は東壁を基準にN-6°-Wを示し、平面形はやや歪な隅丸方形ないし隅丸長方形と推測される。検出長は北辺が5.24m、東辺が1.63m、西辺が0.95mを測り、確認面から0.14m掘り下げたところで床面が検出され、掘方の深さは0.07～0.18mほどである。周溝は確認されなかった。
柱 穴	2基確認されたが、いずれも浅いため、柱穴であるか不明である。
カ マ ド	確認されなかった。
貯 藏 穴	確認されなかった。
遺 物	土師器などが出土し、そのうち高環・甕を図示した。北壁近くの床面上では、10・11などの高環がまとめて出土した。
時 期	遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代中期と考えられる。

#### SI5 (第11・12図、PL2・9)

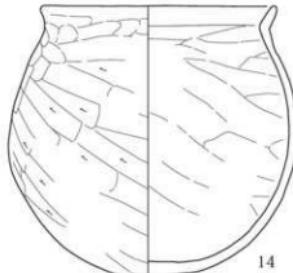
位 置	1区の中央で検出され、北西部は調査区外に位置する。SI4より古い。東辺を擾乱によって破壊されているため、SI6との新旧関係は不明である。
形状・規模	主軸方向は西壁を基準にN-9°-Eを示し、平面形は台形に近い方形である。検出長は北辺が0.76m、東辺が0.30m、南辺が2.54m、西辺が1.19mを測り、確認面から0.17m掘り下げたところで床面が検出され、掘方の深さは0.06～0.14mほどである。周溝は確認されなかった。中央付近で焼土・炭化物がまとまって検出されたが、床面から8cmほど上に位置するため、焼失建物の可能性は低いと考える。
柱 穴	南西隅にP1が検出されたが、浅いため、柱穴であるか不明である。
カ マ ド	確認されなかった。
貯 藏 穴	確認されなかった。
遺 物	土師器などが出土し、そのうちS字状口縁台甕を図示した。
時 期	遺構の時期は、出土遺物が少なく確実なことは言えないが、古墳時代前期の可能性が高い。



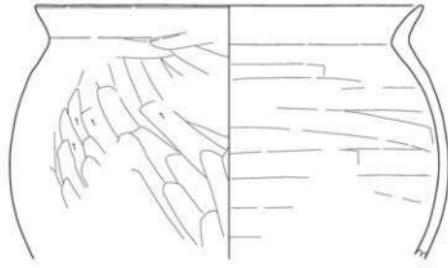
第 10 図 SI4、SI4 出土遺物 (1)



13



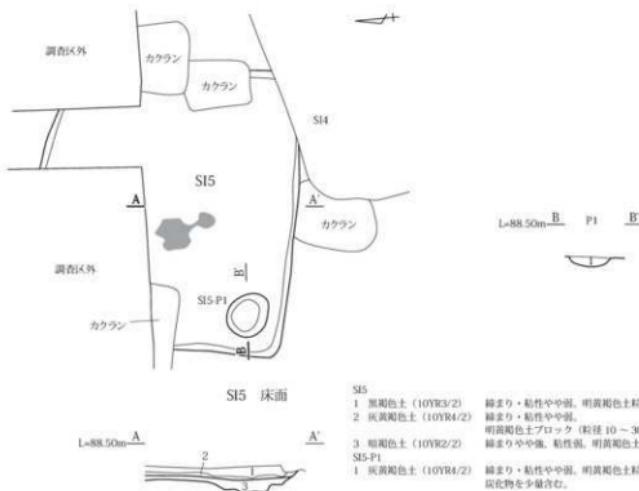
14



15

SI4 出土遺物

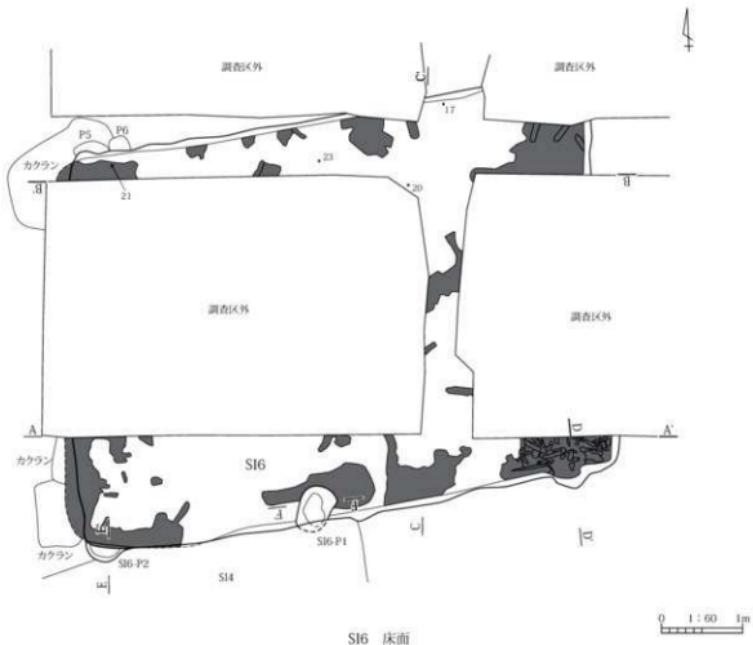
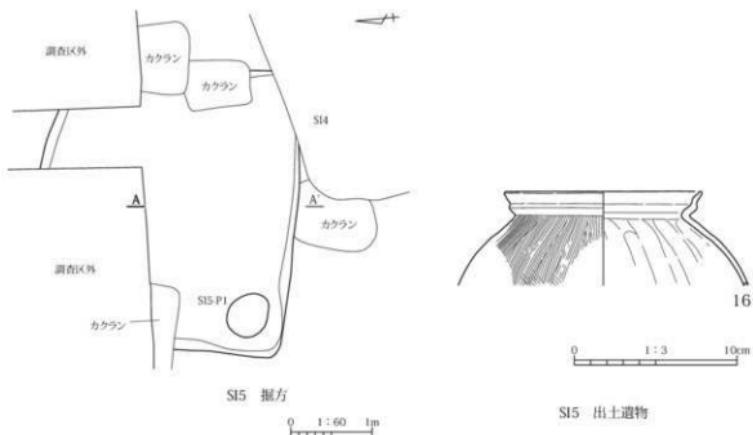
0 1:3 10cm



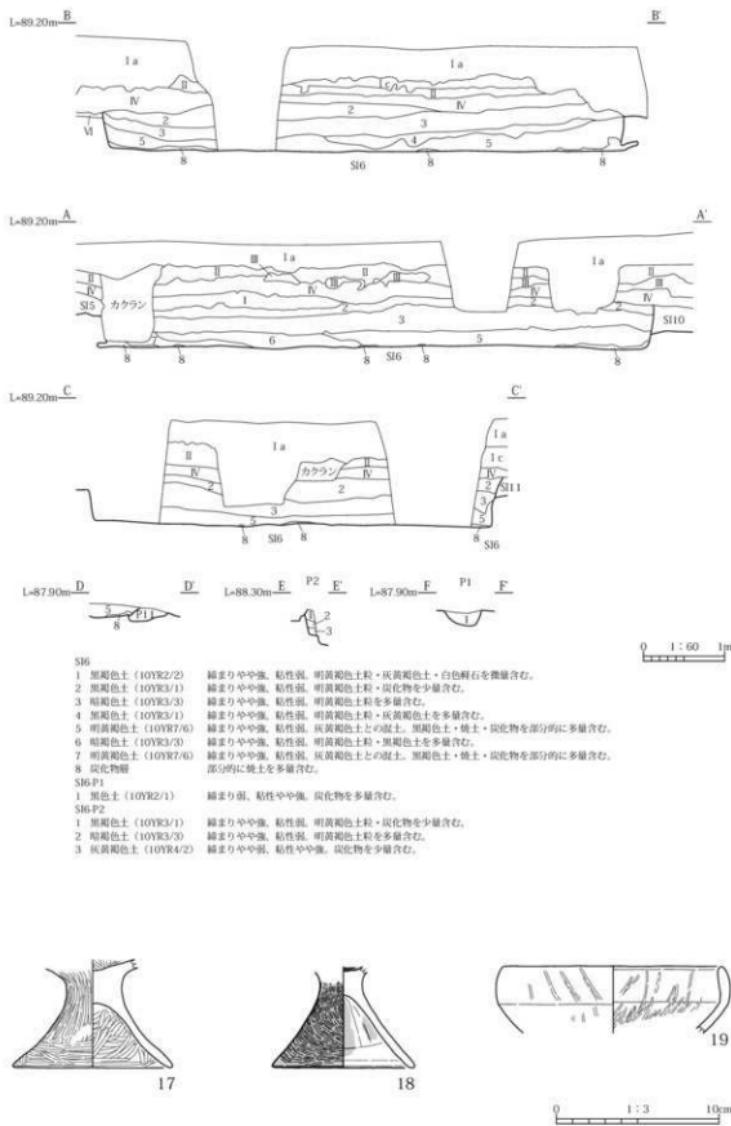
- SI5  
 1 黒褐色土 (10YR3/2)  
 2 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 3 暗褐色土 (10YR2/2)  
 SI5-P1  
 1 灰黄褐色土 (10YR4/2)
- SI5  
 1 黒褐色土 (10YR3/2) 糙まり・粘性やや弱。明黄褐色土粒・焼土を少量含む。  
 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 糙まり・粘性やや弱。  
 明黄褐色土ブロック (粒径 10 ~ 30mm) を少量含む。  
 3 暗褐色土 (10YR2/2) 糙まりやや強。粘性弱。明黄褐色土粒を多量含む。  
 SI5-P1  
 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 糙まり・粘性やや弱。明黄褐色土粒を多量含む。燒土を少量含む。

0 1:60 1m

第 11 図 SI4 出土遺物 (2)、SI5 (1)



第12図 SI5 (2)、SI5 出土遺物、SI6 (1)



第13図 SI6 (2)、SI6 出土遺物 (1)

SI6 (第12～14図、PL2・3・9・10)

位 置	1区の中央から2区中央にかけて検出され、遺構中央の大半が調査区外に位置する。SI4、P5～7より古く、SI10・11、PII・31より新しい。SI5との新旧関係は不明である。
形状・規模	主軸方向は西壁を基準にN-2°-Wを示し、平面形は東西に長い長方形である。遺構の規模は西辺が4.86m、南辺が6.61mを測り、確認面から0.62m掘り下げたところで床面が検出された。高崎泥流層(Ⅶ層)を平らに掘り下げた直床であり、周溝は確認されなかった。床面直上で大量の炭化材と焼土が検出され、その上位に屋根に葺いていたと思われる明黄色褐色土など(4～7層)が乗っており、焼失建物と考えられる。
柱 穴	南壁沿いにP1が検出されたが、壁外に向かって斜めに掘り込まれていることから、柱穴ではないと考えられる。南西隅の張り出し部分をP2としたが、底面は床面から10cmほど高い位置にあり、柱穴ではないと考えられる。別遺構の可能性も残るが、覆土は竪穴本体と近似している。当初P2南側のオーバーハンプ部分も含めてP2と考えていたが、本報告では別遺構(P31)とした。
壁 面	壁は急角度に掘り込まれており、真っ赤に被熱していた。南壁西側の下端および西壁下端がオーバーハンプしており、炭化材が充填されていた。特に西壁は最大で18cmほどオーバーハンプしており、炭化材・焼土が深く入り込んでいた。
カ マ ド	確認されなかった。
貯 藏 穴	確認されなかった。
遺 物	17が床面上から、18がP2から出土している以外は崩落した屋根材の上から出土しており、建物が焼失した跡の窪地に投げ込まれた遺物と考えられる。遺物の年代幅は、古墳時代前～中期と幅広い。この中には、SI8 覆土出土遺物(39)やSI11 挖方出土遺物(49)と接合した土師器片も含まれている。20の台付甕は、S字状口縁台付甕の系譜を引く土器であり、遺構覆土の最上層から出土している(PL2)。
時 期	遺構の時期は、出土遺物の特徴とSI11との新旧関係から、古墳時代中期と考えられる。

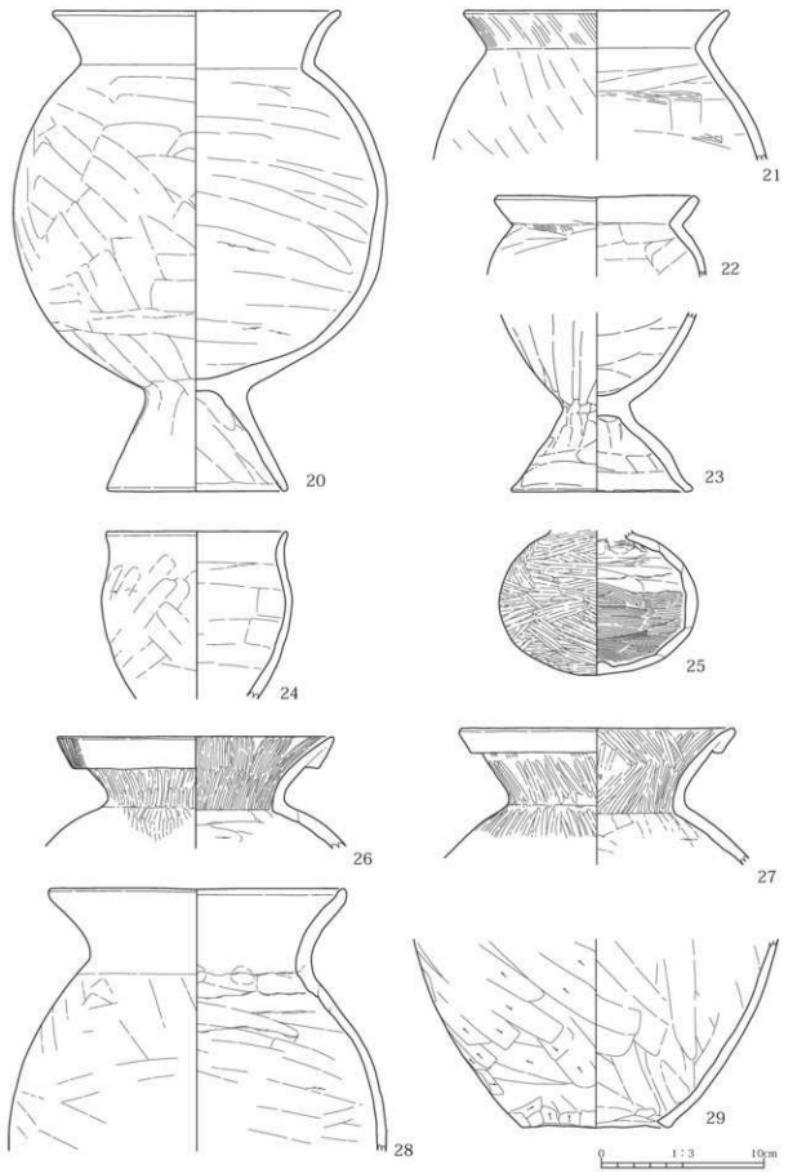
SI7 (第15図、PL3・10)

位 置	2区-2T北側で検出され、遺構の大半は調査区外に位置する。また、3区南西隅もSI7である可能性が高い。SX7より古い。
形状・規模	遺構の大半が調査区外に位置するだけでなく、SX7に大きく破壊されているため、遺構の形状は不明である。検出長は南辺が1.03mを測り、確認面から0.24m掘り下げたところで床面が検出され、掘方の深さは0.06～0.14mほどである。南壁から10cmほど内側に溝が確認されたが、SK1にぶつかるため、周溝ではない可能性が高い。
柱 穴	確認されなかった。
カ マ ド	確認されなかった。
貯 藏 穴	検出範囲の南西隅でSK1が検出されたが、貯藏穴であるかは不明である。
遺 物	土師器などが出土し、そのうち台付甕を図示した。
時 期	遺構の時期は、出土遺物の特徴とSX7との新旧関係から、古墳時代前期と考えられる。

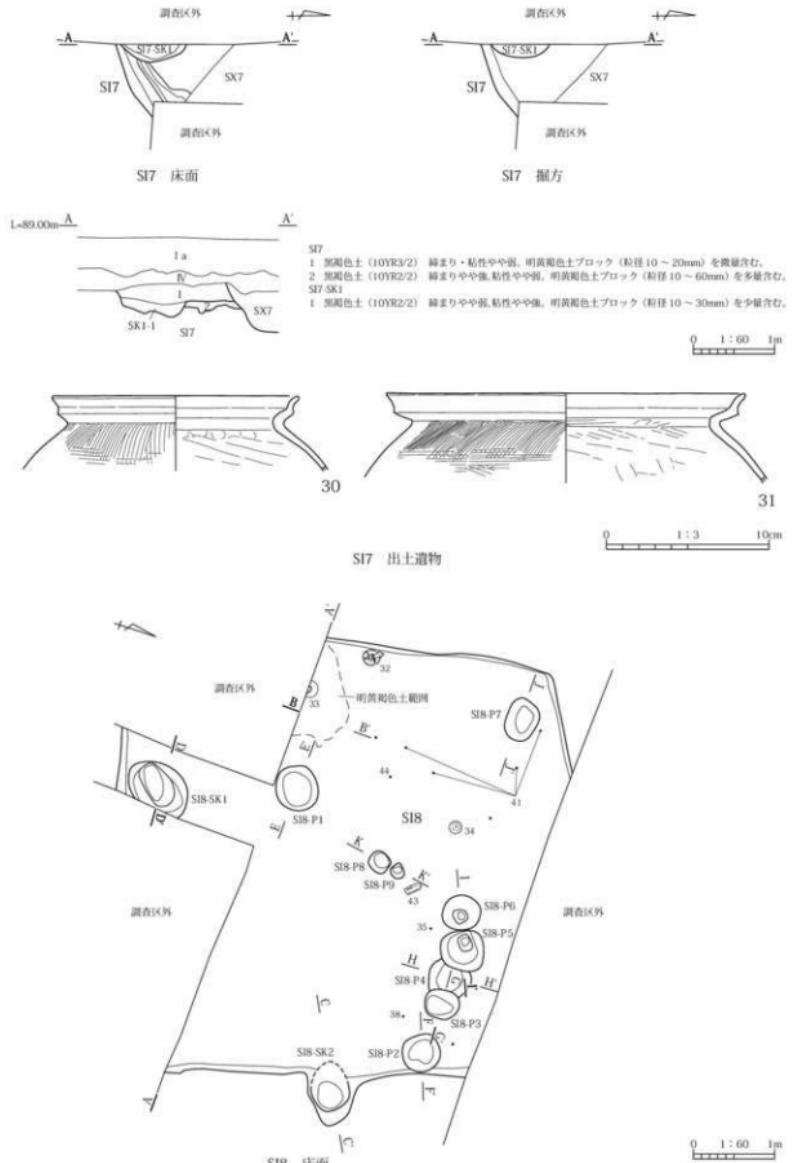
SI8 (第15～18図、PL3・10・11)

位 置	2区-3T北側から3区にかけて検出され、遺構の北東隅および南側の大半が調査区外に位
-----	---

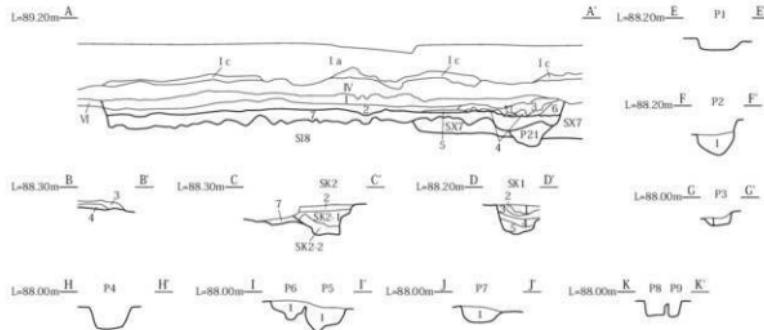
形状・規模	置する。SI15、SX5・7、SK8、P17・21より新しい。
柱 穴	主軸方向は東壁を基準に N-16°-W を示し、平面形はおむね方形である。検出長は北辺が 1.31 m、東辺が 3.70 m、南辺が 0.76 m、西辺が 2.77 m を測り、確認面から 0.22 m 堀り下げたところで床面が検出され、掘方の深さは 0.06 ~ 0.18 m ほどである。周溝は確認されなかった。東壁中央付近に張り出しがあり、SK2 が確認された。
カ マ ド	掘方調査時に P1 ~ 9 が確認されたが、確実に主柱穴といえるものはない。P3 ~ 6 は連続して掘削されており、重複する別遺構の可能性もある。
貯 藏 穴	西壁の調査区間で焼土を多量に含む明黄褐色土が検出されていることから、西壁南側に位置すると考えられる。建物廃絶時に大きく破壊されており、明確な袖は確認できていない。つぶれたカマド天井部の内側(4 層)は赤く被熱しているが、明確な火床面は確認できなかつた。推定火床面で逆位に置かれた高环(33)が 1 点出土しており、支脚として使用されたものと考えられる。煙道は調査区外に位置すると思われる。
遺 物	土師器などが出土し、そのうち高环・环・瓶・甕、剣形の石製模造品、砥石、敲石を図示した。32 はカマド脇の床面上から、34・43 は建物中央の床面から 10 ~ 15cm 程上位で出土した。
時 期	遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代中期と考えられる。
SI10 (第 18・19 図、PL3・12)	
位 置	1 区の中央で検出され、一部が 2 区 -5T にかかる。SI6、SX2、SK3、P9 より古い。SK4 と重複するが、新旧関係は不明である。西側の掘り込みは確認できたが、東側の掘り込みが確認できず遺構の範囲は不明である。壁面断面の観察から、SK4 付近が遺構の東限と推測される。
形状・規模	主軸方向は南西壁を基準に N-35°-W を示し、平面形は方形ないし長方形と推測される。検出長は南西辺が 1.58 m を測り、確認面から 0.22 m 堀り下げたところで床面が検出され、掘方の深さは 0.08 ~ 0.18 m ほどである。SI12 と同一遺構の可能性も考えたが、床面の標高が異なるため別遺構とした。重複する SI6 とは覆土が酷似しており、検出当初は本遺構の方が新しいと考えたが、出土遺物などから SI6 より古いと判断した。周溝は確認されなかった。
柱 穴	確認されなかった。
カ マ ド	確認されなかった。
貯 藏 穴	確認されなかった。
遺 物	土師器などが出土し、そのうち壺・甕を図示した。47・48 は弥生土器の系譜を引くものである。48 は無節縄文や赤彩が施される特徴的な遺物である。
時 期	遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代前期初頭と考えられる。
SI11 (第 20・21 図、PL4・12)	
位 置	2 区から 3 区にかけて検出され、遺構の中央は調査区外に位置する。SI6・14、P5・6・32 より古く、P24 ~ 26 より新しい。
形状・規模	主軸方向は北壁を基準に N-96°-W を示し、平面形は東西に長い長方形である。遺構の規



第14図 SI6出土遺物(2)



第15図 SI7、SI7出土遺物、SI8(1)



## S18

- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 細まりやや強、粘性やや弱。明黄褐色土粒を多量含む。  
 2 黒褐色土 (10YR3/2) 緩まり・粘性やや弱。明黄褐色土粒を少量含む。  
 3 明黄褐色土 (10YR7/6) 緩まりやや強、粘性やや弱。他土・黒褐色土を少量含む。  
 4 粘土層 緩まりやや強、粘性やや弱。黒褐色土を少額含む。  
 5 黒色土 (10YR2/1) 緩まりやや強、粘性やや弱。他土を少額含む。  
 6 褐灰褐色土 (10YR5/1) 緩まりやや強、粘性やや弱。明黄褐色土粒・黒褐色土を多量含む。

7 黒褐色土 (10YR3/1) 緩まりやや強、粘性やや弱。明黄褐色土ブロック  
(粒径 10 ~ 100mm) を多量含む。

## S18-SK1

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 緩まり弱、粘性やや強。明黄褐色土粒を微量含む。  
 2 粘土層 緩まりやや強、粘性弱。  
 3 黑褐色土 (10YR3/2) 緩まりやや強、粘性やや弱。明黄褐色土粒・他土・腐化物を多量含む。  
 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) 緩まりやや強、粘性やや弱。明黄褐色土粒を少量含む。  
 5 明黄褐色土 (2.5Y7/6) 緩まり・粘性やや弱。黒褐色土との混土。

## S18-SK2

- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 細まりやや強、粘性やや弱。灰黄褐色土を多量含む。  
 2 明黄褐色土 (10Y7/6) 緩まりやや強、粘性やや弱。黒褐色土・他土との混土。  
 S18-P1 ~ 4  
 1 黑褐色土 (10YR2/2) 緩まりやや強、粘性やや弱。明黄褐色土粒を微量含む。  
 S18-P5 ~ 7  
 1 黑褐色土 (10YR2/2) 緩まりやや弱、粘性やや強。明黄褐色土粒を少量含む。

S18-SK1

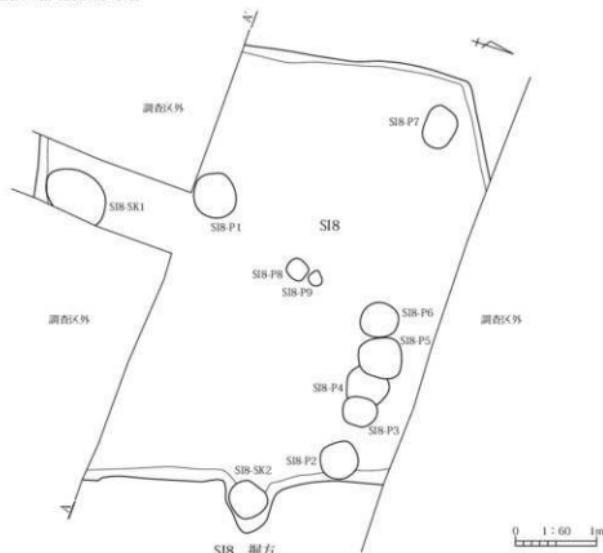
1 黑褐色土 (10YR2/2) 緩まり弱、粘性やや強。明黄褐色土粒を微量含む。

2 粘土層 緩まりやや強、粘性弱。

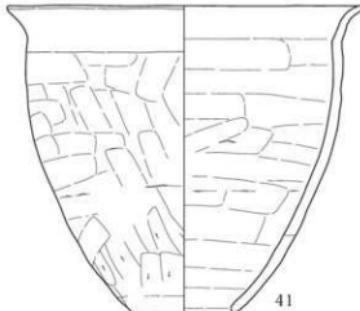
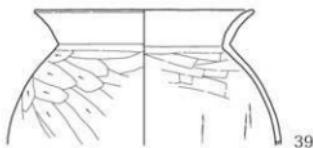
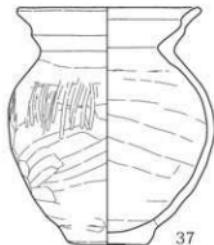
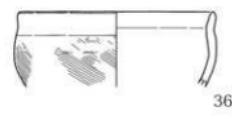
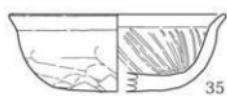
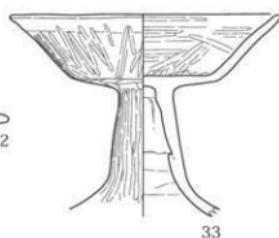
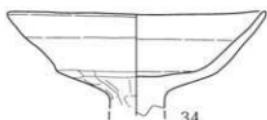
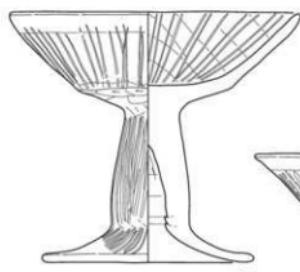
3 黑褐色土 (10YR3/2) 緩まりやや強、粘性やや弱。明黄褐色土粒・他土・腐化物を多量含む。

4 灰黄褐色土 (10YR4/2) 緩まりやや強、粘性やや弱。明黄褐色土粒を少量含む。

5 明黄褐色土 (2.5Y7/6) 緩まり・粘性やや弱。黒褐色土との混土。

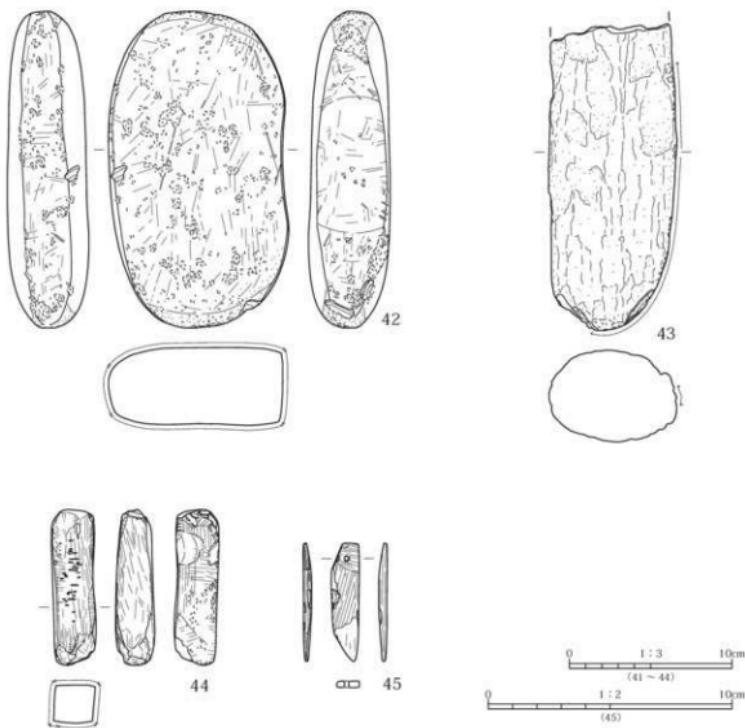


第 16 図 S18 (2)

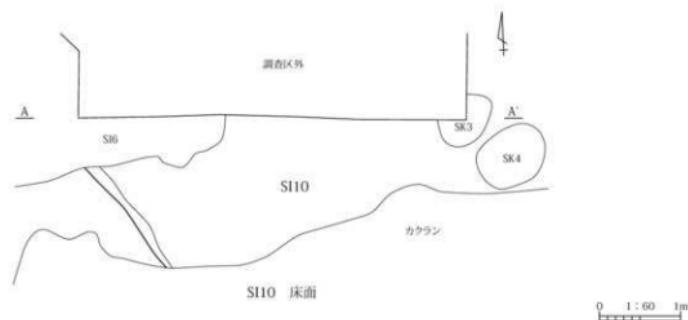


0 1 : 4 10cm  
(37 ~ 41)  
0 1 : 3 10cm  
(32 ~ 36)

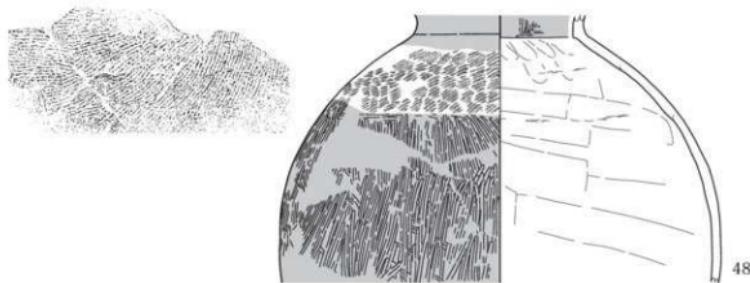
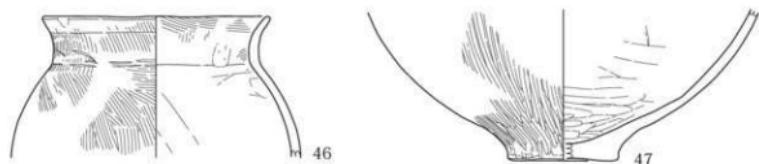
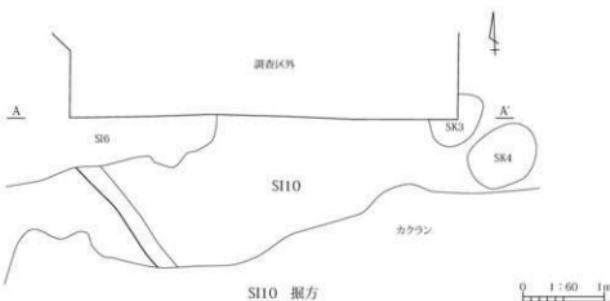
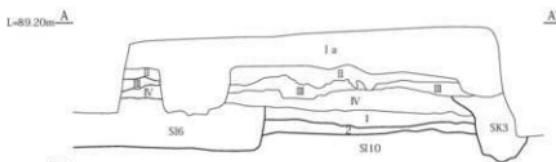
第17図 SI8出土遺物(1)



SI8 出土遺物



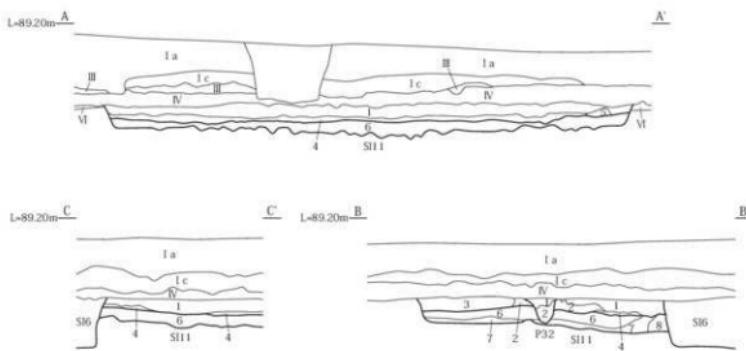
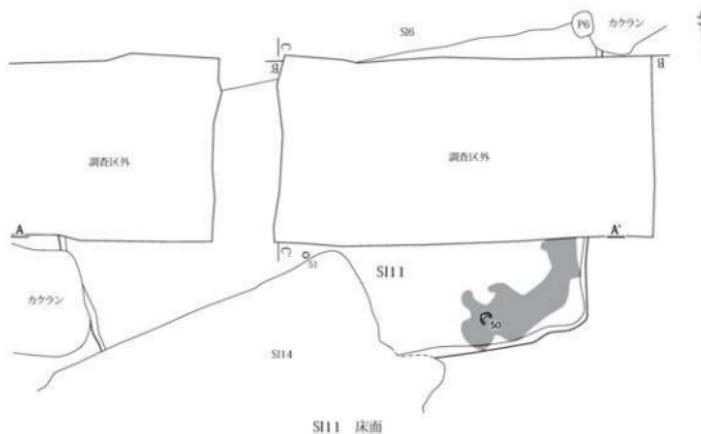
第18図 SI8 出土遺物 (2)、SI10 (1)



0 1:3 10cm

SI10 出土遺物

第19図 SI10 (2)、SI10出土遺物



S11

1 黒褐色土 (10YR3/1) 繼まりやや強。粘性弱。明黄褐色土粒・灰黃褐色土を微量含む。

2 明黄褐色土 (10YR7/6) 繼まりやや強。粘性やや弱。壤土との混土。黒褐色土を少量含む。

3 黒褐色土 (10YR2/2) 繼まりやや強。粘性やや弱。明黄褐色土粒・灰黃褐色土を微量含む。

4 黒褐色土 (10YR2/1) 繼まり強。粘性やや弱。壤土を少量含む。

5 地下層 繼まりやや強。粘性やや弱。黒褐色土を少量含む。

6 黒褐色土 (10YR3/2) 繼まりやや強。粘性やや弱。明黄褐色土粒・灰黃褐色土を多量含む。

7 明黄褐色土 (10YR7/6) 繼まりやや強。粘性弱。灰黃褐色土を多量含む。

8 黑褐色土 (10YR3/2) 繼まりやや強。粘性やや弱。明黄褐色土粒・灰黃褐色土を少量含む。

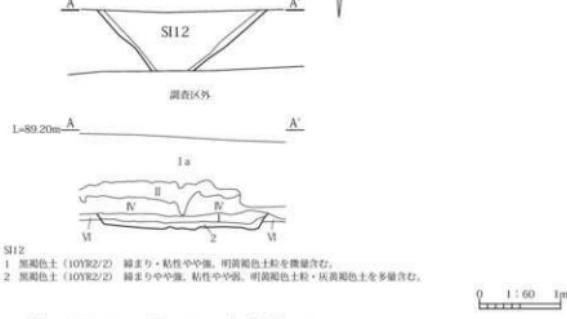
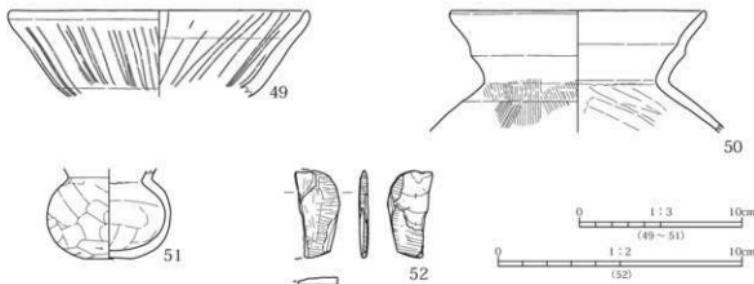
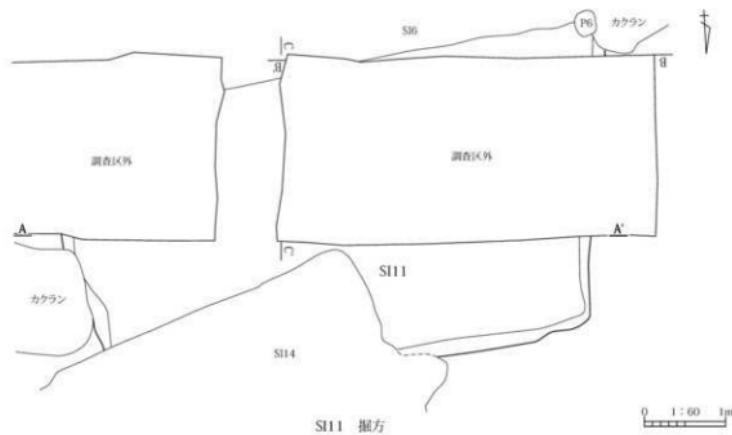
P32

1 黒褐色土 (10YR3/1) 繼まりやや強。粘性やや弱。明黄褐色土粒・腐化物を多量含む。

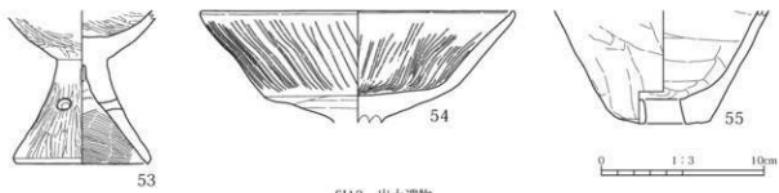
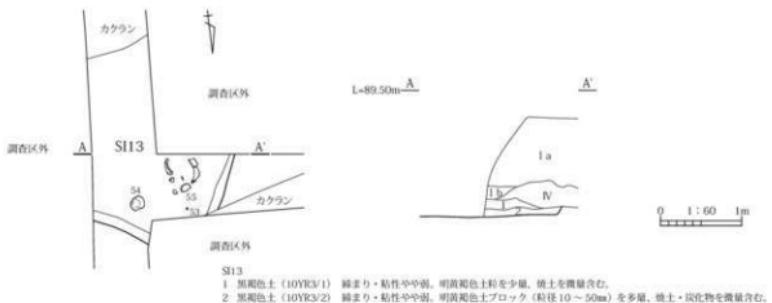
2 灰黃褐色土 (10YR4/2) 繼まり。粘性やや弱。明黄褐色土ブロック（粒径 10 ~ 20mm）を多量。壤土・腐化物を少量含む。



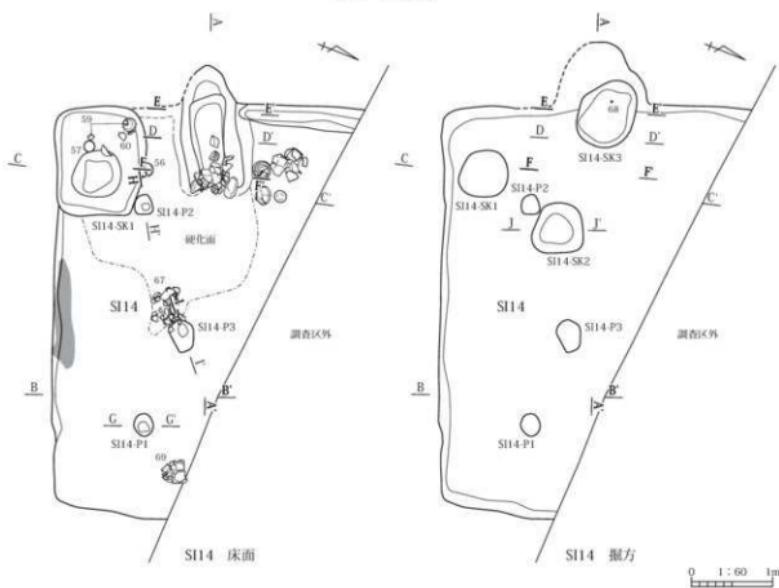
第20図 S11 (1)



第21図 SI11 (2)、SI11 出土遺物、SI12



SI13 出土遺物



第22図 SI13、SI13出土遺物、SI14(1)

模は、東西が 6.18 m、南北は SI12 付近の北壁断面で本遺構が検出されていないため、最大でも 4 m 程度と推測される。確認面から 0.22 m 堀り下げたところで床面が検出され、掘方の深さは 0.06 ~ 0.22 m ほどである。周溝は確認されなかった。遺構の北西隅を中心に、焼土がまとめて検出されており、焼失建物の可能性がある。

柱 穴	確認されなかった。
カ マ ド	確認されなかったが、B-B' 断面において焼土を多く含む明黄褐色土層（2 層）が確認されており、カマドが存在したとすると西壁に位置していた可能性がある。
貯 藏 穴	確認されなかった。
遺 物	土師器などが出土し、そのうち高環・壺、石製模造品を図示した。
時 期	遺構の時期は、出土遺物の特徴と SI6 との新旧関係から、古墳時代中期初頭と考えられる。

#### SI12（第 21 図、PL.4）

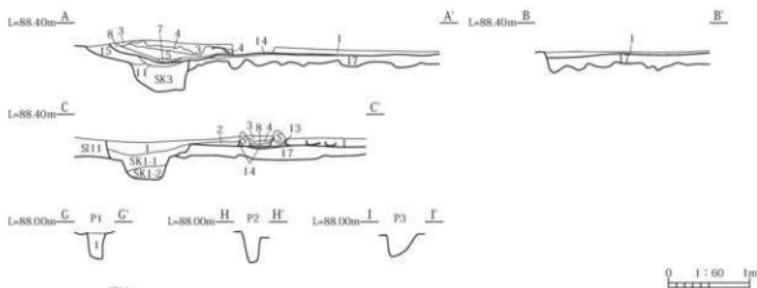
位 置	2 区 -1T で検出され、遺構の大半は調査区外に位置する。
形状・規模	主軸方向は北東壁を基準に N-38°-W を示し、平面形は方形ないし長方形と推測される。検出長は北西辺が 1.16 m、北東辺が 0.99 m を測り、確認面から、0.18 m 堀り下げたところで床面が検出された。床面は硬化しておらず、周溝は確認されなかった。遺構の全容は不明であるが、SX3 と重複していないことから、比較的小形の竪穴建物跡と考えられる。SI10 とは床面の標高が異なるため別遺構とした。
柱 穴	確認されなかった。
カ マ ド	確認されなかった。
貯 藏 穴	確認されなかった。
遺 物	土師器の小片が出土したのみで、図示できるものはなかった。
時 期	遺構の時期は出土遺物が少なく、重複遺構もないことから不明である。

#### SI13（第 22 図、PL.4・12）

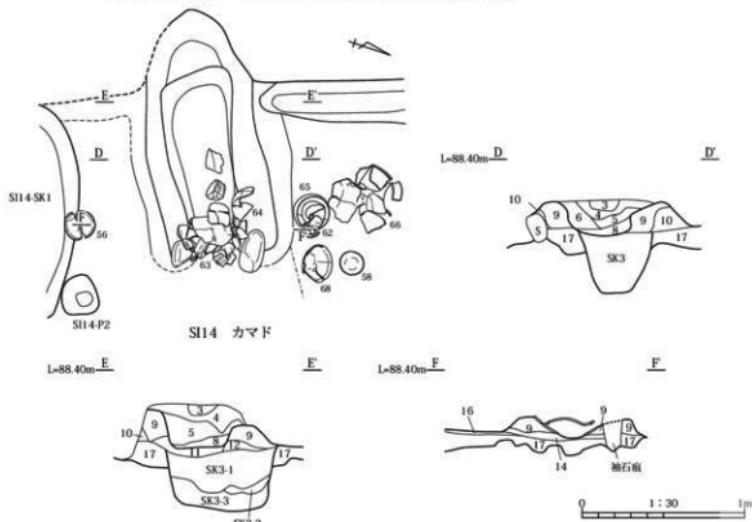
位 置	2 区 -1T 東端で検出され、遺構の大半は調査区外に位置する。南側が擾乱によって削平されているため、遺構の全容は不明である。
形状・規模	主軸方向は西壁を基準に N-26°-E を示し、平面形は方形ないし長方形と推測される。検出長は西辺が 0.79 m、北辺が 0.81 m を測り、確認面から 0.22 m 堀り下げたところで床面が検出された。床面は硬化しておらず、周溝は確認されなかった。
柱 穴	確認されなかった。
カ マ ド	確認されなかった。
貯 藏 穴	確認されなかった。
遺 物	土師器などが出土し、そのうち高環・壺を図示した。54・55 は覆土上位から、壺の口縁部片などと一緒にまとめて出土した。53 は床面から数 cm 上から出土した。掲載外遺物も含めて、前期と中期の遺物が混在して出土した。
時 期	遺構の時期は、出土遺物の年代幅があるが、古墳時代中期の可能性が高い。

#### SI14（第 22 ~ 25 図、PL.4・5・12 ~ 14）

位 置	3 区の中央で検出され、北部は調査区外に位置する。SI11、SK9、P27 より新しい。
-----	--

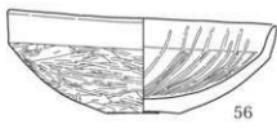


- SI14
- 黒褐色土 (10YR2/2)
  - 黒色土 (10YR2/1)
  - 黒褐色土 (10YR2/1)
  - 明黄褐色土 (10YR7/6)
  - 燒土層
  - 燒土と炭化物との混土
  - 明黄褐色土 (10YR6/6)
  - 黒褐色土 (10YR2/1)
  - 明黄褐色土 (10YR7/6)
  - 黒褐色土 (10YR4/1)
  - 明黄褐色土 (10YR4/1)
  - 明黄褐色土 (10YR7/6)
  - 燒土層
  - 黒褐色土 (10YR2/1)
  - 黒褐色土 (10YR2/1)
  - 黒褐色土 (10YR2/2)
- 特徴: 粘りやや強、粘性弱。明黄褐色土粒・燒土・炭化物との混土。貼り直された場所。
- 特徴: 粘りやや強、粘性弱。明黄褐色土粒・燒土・炭化物との混土。
- 特徴: 粘りやや強、粘性弱。明黄褐色土粒・燒土・炭化物との混土。少量含む。

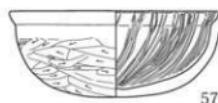


第23図 SI14 (2)

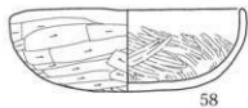
形状・規模	主軸方向はカマドを基準に N-117°-W を示し、平面形は方形ないし長方形と推測される。検出長は東辺が 1.39 m、南辺が 4.62 m、西辺が 3.72 m を測り、確認面から 0.10 m 挖り下げたところで床面が検出され、掘方の深さは 0.07 ~ 0.17 m ほどである。カマドの右側で溝状の窪みが確認されたが、南・東壁では確認されていない。南壁際中央付近で焼土が溝状に検出されたが、局所的な分布なので焼失建物の可能性は低いと思われる。
柱穴	掘方調査時に P1 ~ 3 が確認され、いずれも床面上の柱穴と考えられる。P1・2 は柱穴の規模は小さいものの、位置関係から主柱穴と思われる。
カマド	西壁中央付近で、つぶれた状態で検出された。黄褐色ローム土で袖・天井部が構築され、天井部内面はかなり被熱している。燃焼部は壁内に位置し、奥行き 1.13 m、幅 0.23 ~ 0.34 m である。煙道はカマドの長さに比して短く、長さ 0.42 m、幅 0.60 m である。焚き口部両側に礫が埋設されており、その内側には大形の壺胴部（64）が懸架材として設置されていたと考えられる。65 も同じカマド焚き口から出土しており、カマド内面に張り付けられていた可能性がある。焚き口から 0.44 m ほど奥に、四角柱状に整形された礫が支脚として設置されている。
貼床	カマド前方から左側にかけて硬化面（14 層）が確認され、カマドの袖下まで達している。カマド左側は 14 層の下に 16 層が貼られており、特別床を硬く構築している。また、カマド左側は床面よりも一段高く硬化面（2 層）が構築されており、貯蔵穴周辺が硬く締め固められていたようである。
貯蔵穴	カマド左側の南西隅で確認された（SK1）。長軸 1.33 m、短軸 1.08 m、深さ 0.13 m ほどの圓丸長方形の掘り込みの中央に、直径 0.56 m、深さ 0.27 m の土坑が掘られている。貯蔵穴の遺物としては、円形土坑部の縁で 57 が出土した他は、土坑検出面で多く出土した。貯蔵穴以外に、掘方調査時に SK2・3 が確認された。SK2 はカマド直下で確認され、掘方埋土を掘り込んでいる。
遺物	土師器などが出土し、そのうち壺・器台・鉢・壺・甕・有孔鉢・壺を図示した。貯蔵穴（SK1）の確認面付近および、カマド右側から多くの土器が出土した。59 は壺部に焼成後穿孔が施される器台であるが、3ヶ所目の穿孔途中で作業を止めてしまっている。65 は甕上半部の破片を台として使用しており、上には 62 が設置されていたと考えられる。
時期	遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代中期と考えられる。
S15（第 26 図、PL.5・14）	
位置	3 区の中央で検出され、西側は S18 によって破壊される。北部は調査区外に位置するため、遺構の全容は不明である。S18 より古く、SX5 より新しい。
形状・規模	主軸方向は東壁を基準に N-17°-W を示し、平面形は方形ないし長方形と推測される。検出長は東辺が 1.08 m、南辺が 2.71 m を測り、確認面から 0.13 m 挖り下げたところで床面が検出され、掘方の深さは 0.07 ~ 0.28 m ほどである。P1 ~ 3 より西側が、ローム土が硬く締め固められていることから、この貼床（2 層）の西側にカマドが存在した可能性が考えられる。掘方は、貼床部分の下が一段掘り下げられており、貼床直下で床下土坑（SK1）が確認された。
柱穴	P1 ~ 3 が確認された。P3 は貼床下で柱材を埋設した掘方が確認されたため、貼床構築と同時に柱を立てたか、貼床構築時にはすでに上屋が建てられていたと考えられる。



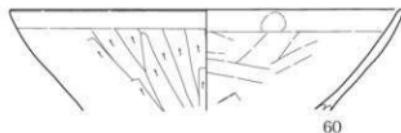
56



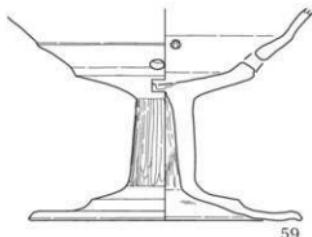
57



58



60



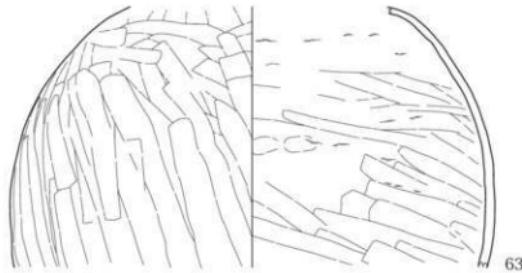
59



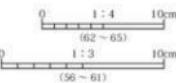
61



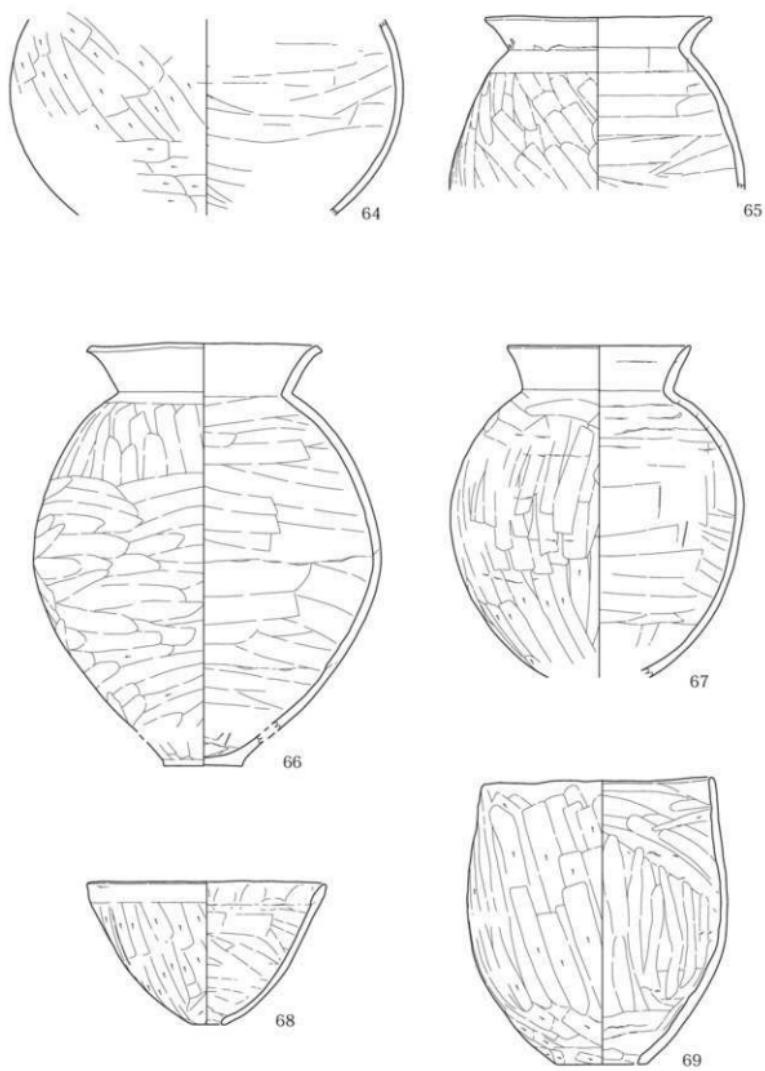
62



63

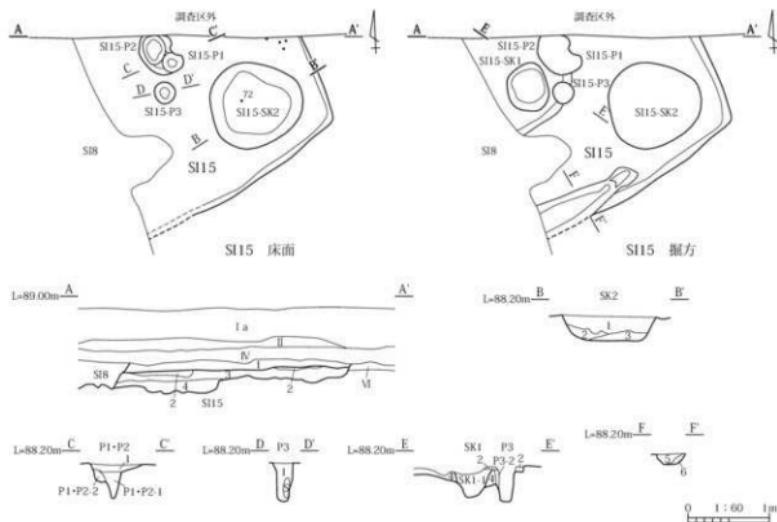


第24図 SI14出土遺物(1)



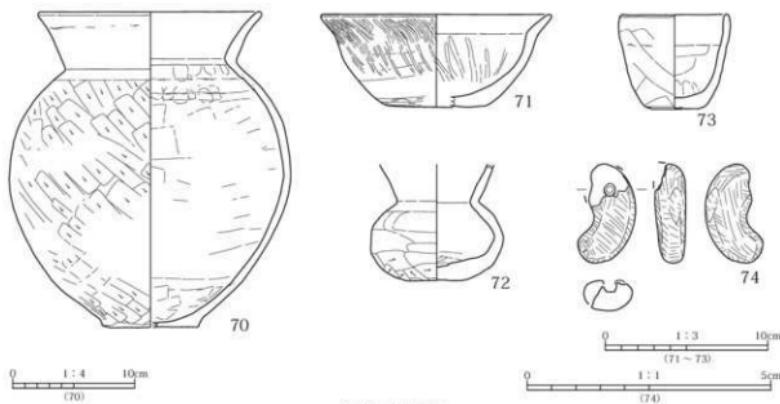
0 1:4 10cm

第25図 SI14出土遺物(2)



- SI15  
 1 黒褐色土 (10YR2/2)  
 2 明黄褐色土 (10YR7/6)  
 線まりやや強、粘性やや弱。明黄褐色土粒を微量含む。  
 線まりや強。粘性やや弱。褐灰色土・鐵土。  
 腐化度を多層含む。  
 3 黒褐色土 (10YR2/2)  
 4 褐灰色土 (10YR4/2)  
 線まりやや弱、粘性やや強。明黄褐色土粒を少量含む。  
 線まりやや弱、粘性やや強。黒褐色土・  
 明黄褐色土粒を多層含む。  
 5 黑褐色土 (10YR3/2)  
 線まりやや強、粘性やや弱。明黄褐色土粒を少量含む。  
 6 褐灰色土 (10YR4/2)  
 線まりやや強、粘性やや強。  
 SI15-SK1  
 1 黒褐色土 (10YR2/2)  
 線まりやや弱、粘性やや強。明黄褐色土粒を少量含む。

- SI15-SK2  
 1 黒褐色土 (10YR3/1)  
 線まりやや強、粘性やや弱。  
 明黄褐色土ブロック (粒径 10 ~ 20mm) を少量含む。  
 線まりやや強。粘性やや弱。  
 2 黒褐色土 (10YR2/2)  
 明黄褐色土ブロック (粒径 10 ~ 30mm) を微量含む。  
 線まりやや弱、粘性やや強。明黄褐色土粒を微量含む。  
 3 黒褐色土 (10YR2/1)  
 SI15-P1 + 2  
 1 黒褐色土 (10YR3/2)  
 2 黒褐色土 (10YR3/2)  
 SI15-P3  
 1 黑褐色土 (10YR2/2)  
 2 明黄褐色土 (10YR7/6)  
 線まり弱、粘性やや弱。明黄褐色土粒を少量含む。  
 線まり強、粘性やや弱。黒褐色土を少量含む。



第26図 SI15、SI15-SK1出土遺物

カマド	確認されなかったが、前述のように貼床部分の西側に存在した可能性がある。
貯藏穴	確認されなかった。掘方調査時に大形のSK2が確認され、本来は床面施設であったと判断したが、貯藏穴とは考え難い。底面中央で小形壺(72)が1点出土した。
遺物	土師器などが出土し、そのうち高壺・壺・鉢・甕・勾玉・未製品を図示した。また図示はしていないが、遺構検出時に、埴輪石3点が三角形状に並べられた状態で出土した(PL.5)。
時期	遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代中期と考えられる。

#### S116 (第27図)

3区北西隅に位置し、S18より古く、SX7より新しい。北壁断面で床面が確認されたが、平面的な広がりを検出することができなかった。おそらく、遺構南側の縁部分のみが調査区内に位置したものと推測する。確認された遺構の規模は東西4.14m、床面までの深さは最大0.20m、掘方の深さは0.04～0.18mほどである。遺物は出土していないが、重複遺構との関係から、古墳時代前～中期の竪穴建物跡と考えられる。

### 第2節 竪穴状遺構・カマド

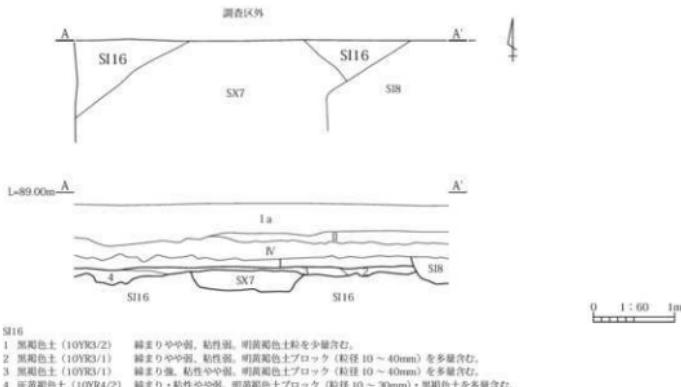
本節では検出範囲が狭小なものや床面施設が見られないものなど、積極的に竪穴建物跡と認定できなかったSX3・5・7に、カマド部分のみが検出されたSX4を加えた計4基についてとりあげる。

#### SX3 (第28図、PL.5)

位置	2区-6T南側で検出され、西側・南側は複数によって破壊される。遺構の大半は調査区外に位置するため、遺構の全容は不明である。
形状・規模	検出長は南北1.59m、東西0.30m、深さは0.34mを測る。遺構の北側で明黄褐色土と焼土が集中して検出されているため、近くにカマドが存在した可能性がある。6層下の底面で小穴が確認され、SX3-P1とした。
遺物	土師器の小片が出土したのみで、図示できるものはなかった。
時期	不明である。

#### SX4 (第28図、PL.5・14)

位置	3区東端で検出された明黄褐色土で構築されたカマドである。床面や柱穴、掘方などが確認できなかったため、SIではなくSXとして調査した。カマド燃焼部で計測した主軸方向はN-132°-Eである。
形状・規模	燃焼部の規模は、奥行き0.86m、幅0.24～0.30mである。天井部はローム土と焼土が混じり合っており、意図的に破壊されたように見える。煙道は確認できていない。燃焼部中央に明黄褐色土で造られた支脚が検出されており、硬く焼き締まっていた。焚き口手前に、部分的にはあるが硬化面が検出された。カマド構築土下に焼土を少量含む黒褐色土が確認されているが、これがカマド掘方埋土なのか、基本層序IVないしV層に相当するのか不詳である。
遺物	カマド構築材内および周辺から、土師器の壺・甕などが出土した。75はカマド範囲外から出土した壺で、燃焼部よりも8cmほど低い位置にあった。76はカマド左側に逆位で置かれていた口縁部と、右袖上部に埋設されていた胴部片である。



第 27 図 SI16

時 期 遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代中期と考えられる。

#### SX5 (第 29 図)

位 置 3 区中央で検出され、遺構の大半を SI8・15 に破壊されているため、全容は不明である。SI8・15 より古く、P15・16 より新しい。

形状・規模 検出長は南北 1.25 m、東西 0.57 m、深さ 0.14 m を測る。底面は平坦であるが、掘方はない。SI12 のような、浅い直床の建物跡の可能性がある。P15・16 の上層に本遺構の覆土が沈みこんでいたため、両ピットは SX5 に作成したものではないと判断した。

遺 物 出土しなかった。

時 期 SI8・15 より古いことから、古墳時代中期以前と考えられる。

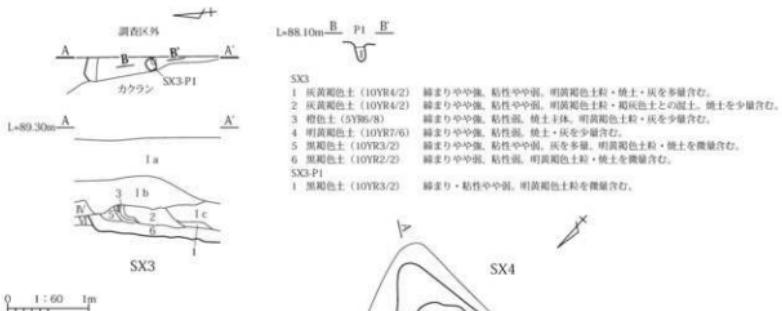
#### SX7 (第 29・30 図、PL15)

位 置 3 区西端から 2 区 -2T にかけて検出された。SI8・16、SK8、P17・21 より古く、SI7 より新しい。遺構底面で、P18 ~ 20 が並んだ状態で検出された。P18 ~ 20 は浅い窪み状の遺構であり、柱穴や炉跡ではないと考えられる。

形状・規模 検出長は長軸 6.01 m、短軸 4.23 m、深さは 0.48 m を測る。平面形は小判形に近い隅丸長方形と推定される。底面は概ね平坦であるが、北西部が若干高くなる。柱穴・炉跡などの床面施設が確認できなかったため、竪穴状遺構とした。

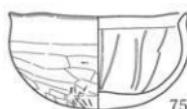
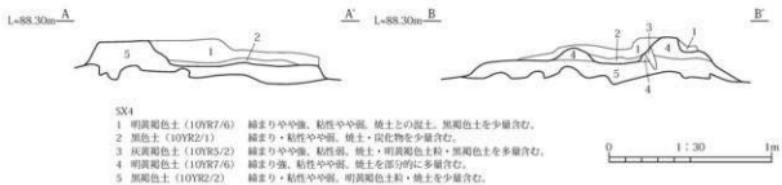
遺 物 土師器などが出土し、そのうち高杯・器台・壺・台付壺を図示した。赤彩された高杯（81）は底面付近から出土したが、83 ~ 86・88などの遺物は上層からまとった状態で出土した。

時 期 遺構の時期は、出土遺物の特徴から古墳時代前期と考えられる。



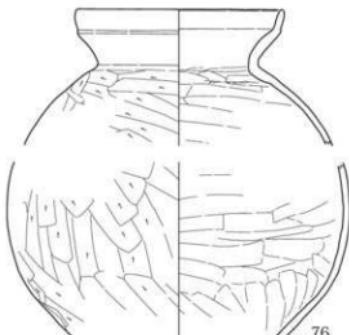
L=88.10m B B'

- SX3
- 1 黄褐色土 (10YR4/2) 線まりや中強。粘性や中弱。明黄褐色土粒・埴土・灰を多量含む。  
 2 黄褐色土 (10YR4/2) 線まりや中強。粘性や中弱。明黄褐色土粒・褐灰色土との混土。埴土を少量含む。  
 3 棕褐色土 (5YR6/8) 線まりや中強。粘性弱。埴土主体。明黄褐色土粒・灰を少量化。  
 4 明黄色土 (10YR7/6) 線まりや中強。粘性弱。埴土・灰を少量化。  
 5 黑褐色土 (10YR3/2) 線まりや中強。粘性や中弱。灰を多量。明黄褐色土粒・埴土を微量含む。  
 6 黑褐色土 (10YR2/2) 線まりや中強。粘性弱。灰を多量。明黄褐色土粒・埴土を微量含む。  
 SX3-P1  
 1 黑褐色土 (10YR3/2) 線まりや中強。粘性や中弱。明黄褐色土粒を微量含む。



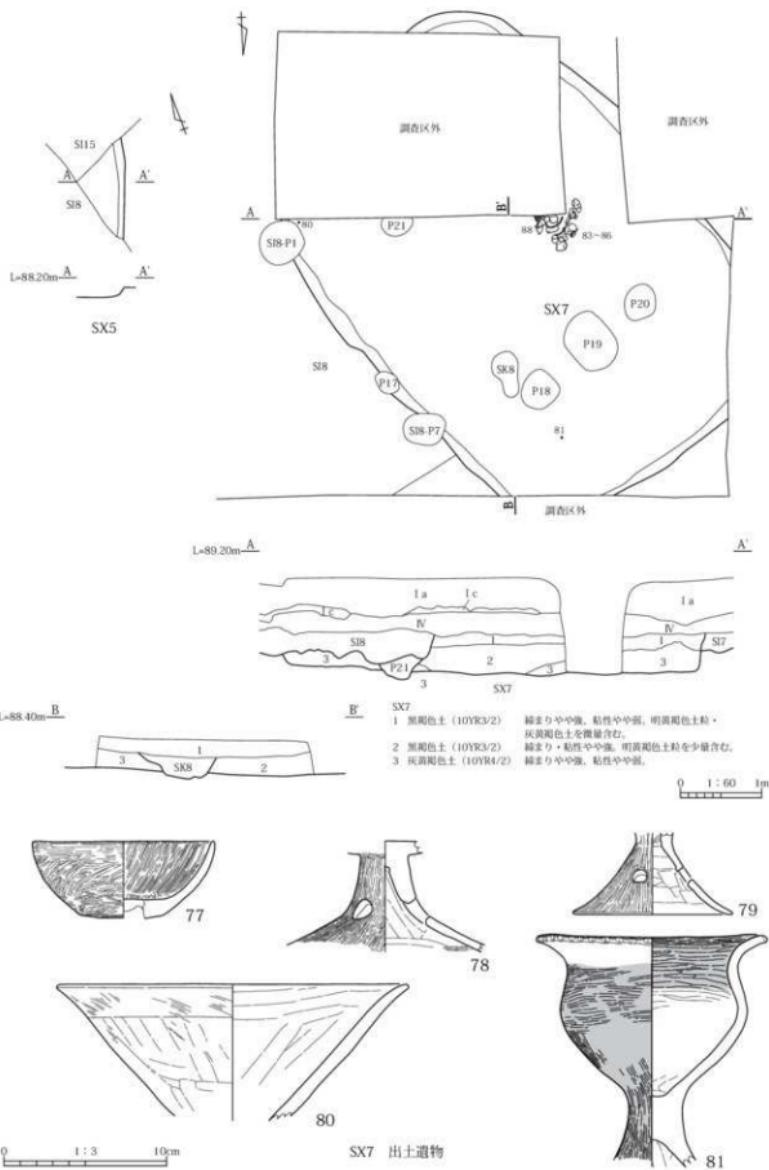
0 1:4 10cm  
(75)

0 1:3 10cm  
(76)

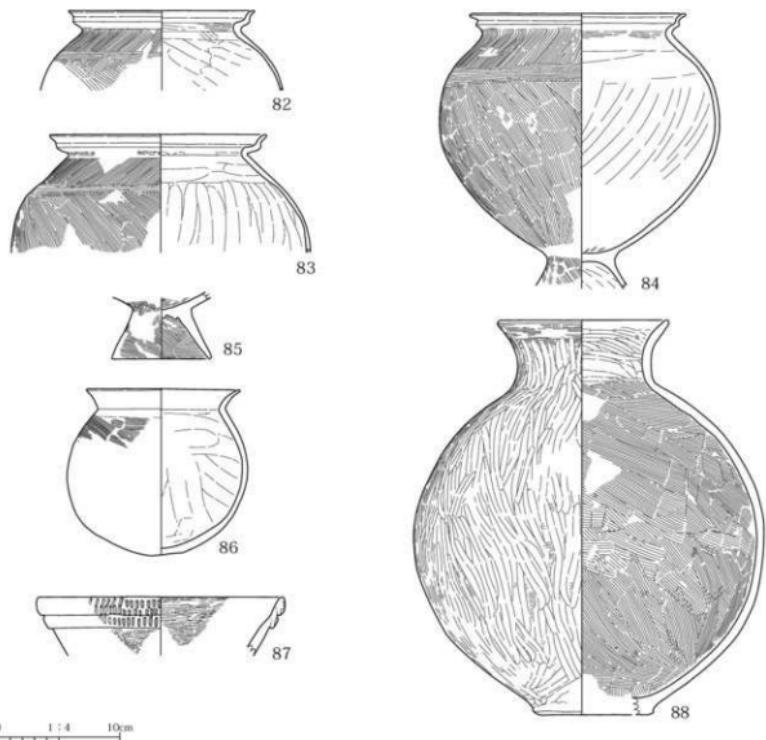


SX4 出土遺物

第28図 SX3・4、SX4出土遺物



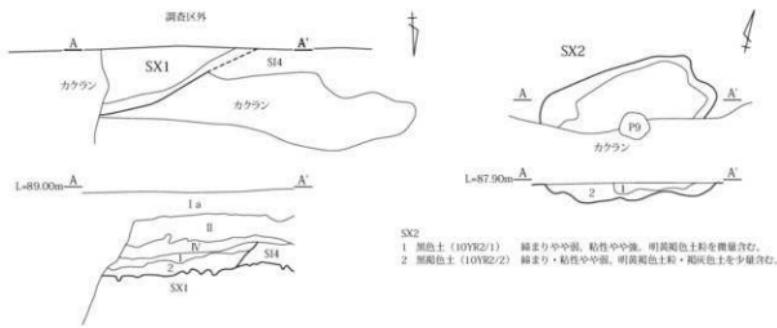
第29図 SX5・7、SX7出土遺物(1)



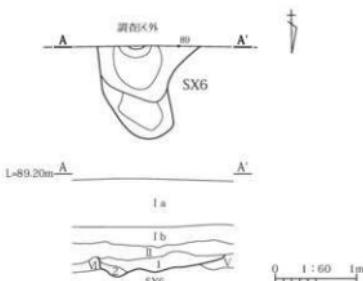
第30図 SX7 出土遺物 (2)

### 第3節 性格不明遺構 (第28~31図、PL.5・6・14~16)

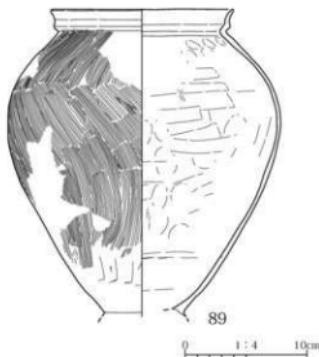
本遺跡で確認された性格不明遺構は、SX1・2・6の3基である。SX1は1区中央南壁際で検出され、豊穴建物跡の可能性もあるが、明確な床面などが確認できなかつたためSXとした。東側を擾乱によって破壊されるほか、遺構の大半が調査区外に位置するため全容は不明である。検出長は長軸1.59m、短軸0.73m、深さは0.24mである。遺構の時期は、SI4より新しいことから、古墳時代中期以降と考えられる。SX2はSI10床面調査時に検出された遺構で、P9より古く、SI10より新しい。平面形は楕円形で、検出長は長軸2.08m、短軸0.77m、深さ0.24mである。遺構の時期は、SI10より新しいことから古墳時代前期以降と考えられる。SX6は3区東側で検出された樹痕の可能性が高い窪みであるが、遺物が多く出土したため遺構と認定した。平面形は不整楕円形と想定され、検出長は南北1.14m、壁面で確認された東西幅は1.56m、深さは0.22mである。上層からS字状口縁台付甕(89)がまとまって出土しており、古墳時代前期の遺構と考えられる。



**SX1**  
1 黒褐色土 (10YR2/2) 締まり・粘性やや弱。明黄褐色土粒・炭化物を微量含む。  
2 黒褐色土 (10YR3/2) 締まり・粘性やや弱。燒土・黒色土を多量含む。



**SX6**  
1 黒褐色土 (10YR2/2) 締まりやや強。粘性弱。明黄褐色土粒・白色軽石を微量含む。  
2 褐灰色土 (10YR4/1) 締まりやや強。粘性やや弱。黒褐色土を多量含む。

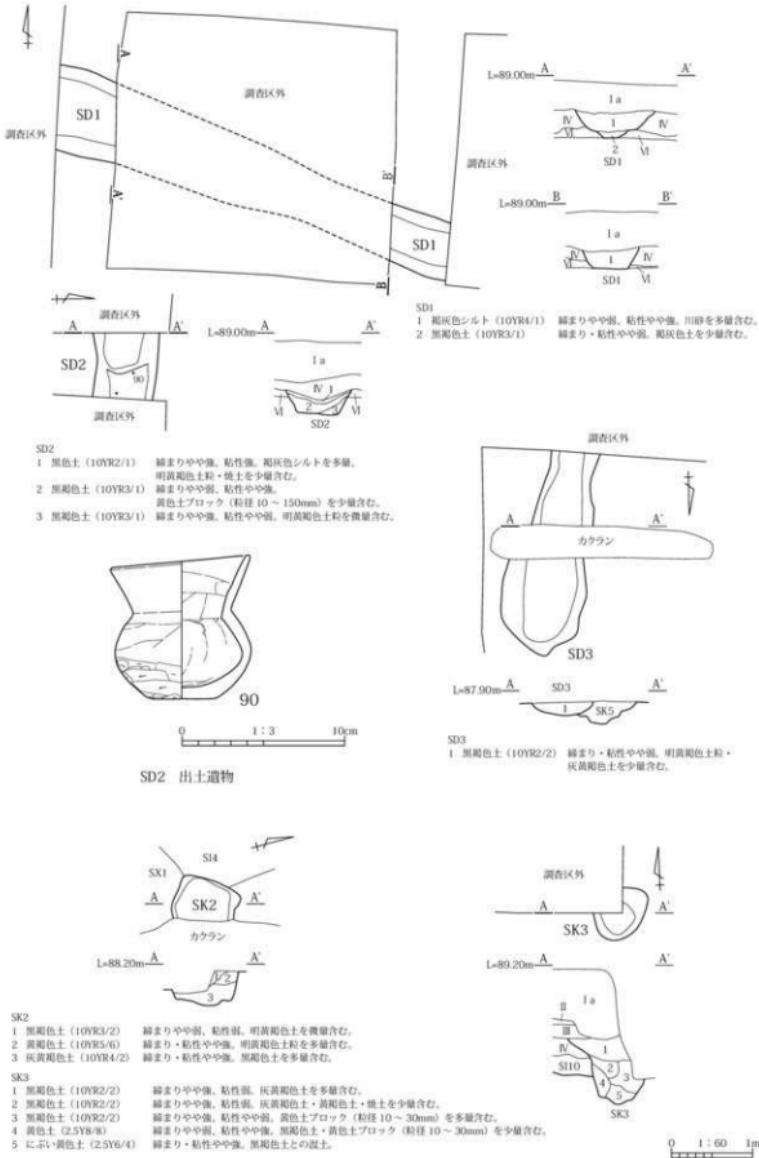


**SX6 出土遺物**

第31図 SX1・2・6、SX6出土遺物

#### 第4節 溝 (第32図、PL.6・16)

本遺跡で確認された溝は3条であり、いずれもごく一部分のみが検出された。SD1は2区-2Tから3Tにかけて検出された東西方向の溝で、I層直下のIV層上面から掘り込まれている。緩く蛇行する溝と推定され、主軸方向はおおむね N-69°-W を示し、検出長 5.11 m、幅 0.70 ~ 1.05 m、深さは 0.22 ~ 0.30 m である。遺構の時期は不明であるが、かなり新しい時期の可能性がある。SD2は2区-3Tでのみ検出された東西方向の溝で、断面形状から溝と判断した。主軸方向はおおむね N-84°-W を示し、検出長 0.81 m、幅 0.74 m、深さは 0.22 m である。2区-2T・4Tで溝の続きが確認されていないことから、最長でも 7.5 m 以内の溝と推測される。遺物は小型壺(90)などが出土しており、遺構の時期は古墳時代中期と考えられる。SD3は1区東端で検出された南北方向の溝で、SK5より新しい。主軸方向はおおむね N-10°-E を示し、検出長 2.50 m、幅 0.56 ~ 1.00 m、深さは 0.14 ~ 0.17 m である。遺構の時期は不明である。



第32図 SD1～3、SD2出土遺物、SK2・3

## 第5節 土坑（第32・33図、PL6・7）

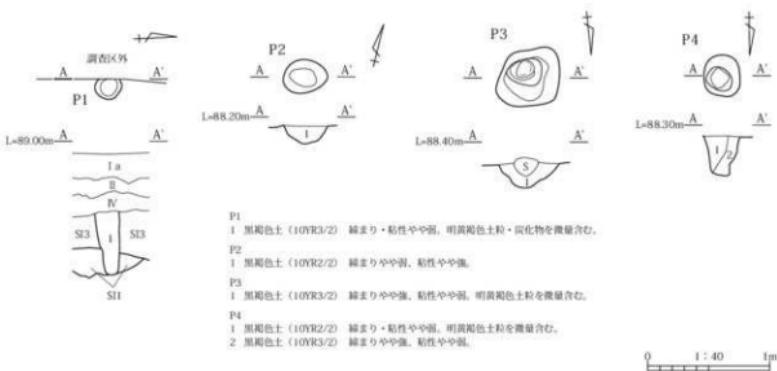
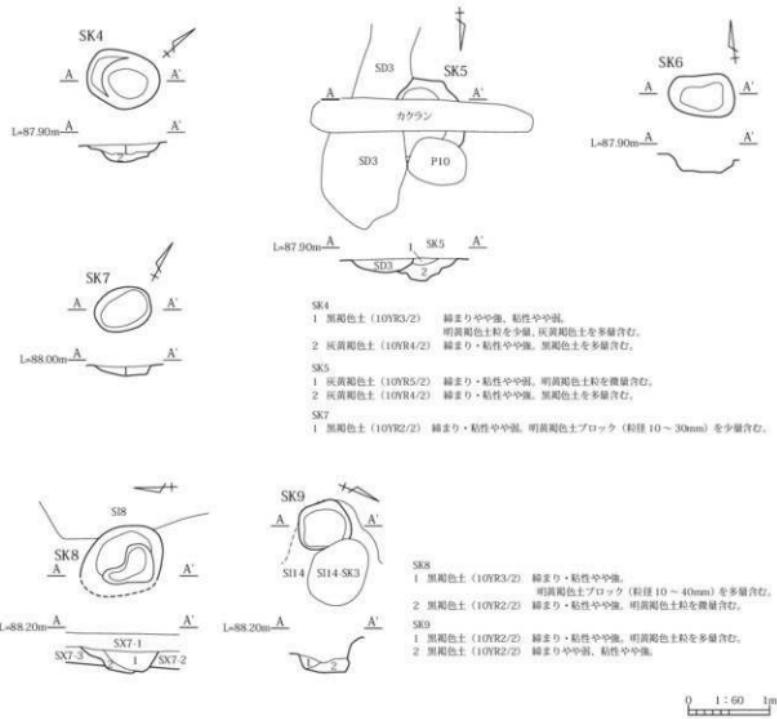
本遺跡で確認された土坑は8基である。SK1はSX7に名称変更したため、欠番となっている。SK2は1区中央で検出され、東半を擾乱によって破壊される。SI4・SX1より古く、平面形は隅丸方形ないし隅丸長方形と推測され、断面形状は箱状である。検出長は長軸0.77m、短軸0.51m、深さは0.43mである。遺構の時期は、SI4より古いことから、古墳時代中期以前と考えられる。SK3は2区-6T南端から1区にかけて検出され、北西部は調査区外に位置する。SI10より新しく、平面形は円形と推測され、断面形状は中央がやや窪む漏斗状である。検出長は長軸0.74m、短軸0.46m、深さは0.74mである。IV層上面から掘り込まれ、III層に被覆されている土坑である。SK4は1区中央で検出された土坑で、SI10と重複するが新旧関係は不明である。平面形は梢円形で、断面形状は浅い段を有する皿状である。長軸0.90m、短軸0.70m、深さは0.21mである。SK5は1区東端で検出され、SD3、P10より古く、P12より新しい。重複遺構や擾乱に破壊されているため全容は不明であるが、平面形は円形と推測され、断面形状は皿状である。検出長は長軸1.03m、短軸0.75m、深さは確認できた範囲で0.28mである。SK6は1区東端で検出され、平面形は梢円形、断面形状は皿状である。検出長は長軸0.81m、短軸0.52m、深さは0.17mである。SK7は3区東側で検出され、平面形は梢円形、断面形状は皿状である。検出長は長軸0.70m、短軸0.54m、深さは0.11mである。SK8はSX7調査中に確認された土坑で、SX7が埋没する過程で掘り込まれた土坑である。SI8より古く、SX7より新しい。平面形は梢円形と推測され、断面形状はおおむね半円状である。検出長は長軸1.05m、短軸0.74m、深さは0.27mである。遺構の時期は、SI8・SX7との新旧関係から、古墳時代前～中期と考えられる。SK9は3区中央で検出された土坑で、SI14より古い。遺構の上位はSI14のカマドによって破壊されており、平面形は円形、断面形状はおおむねU字状である。検出長は長軸0.61m、短軸0.56m、深さは0.21mである。遺構の時期は、SI14より古いことから、古墳時代中期以前と考えられる。

## 第6節 ピット（第33～35図、PL7）

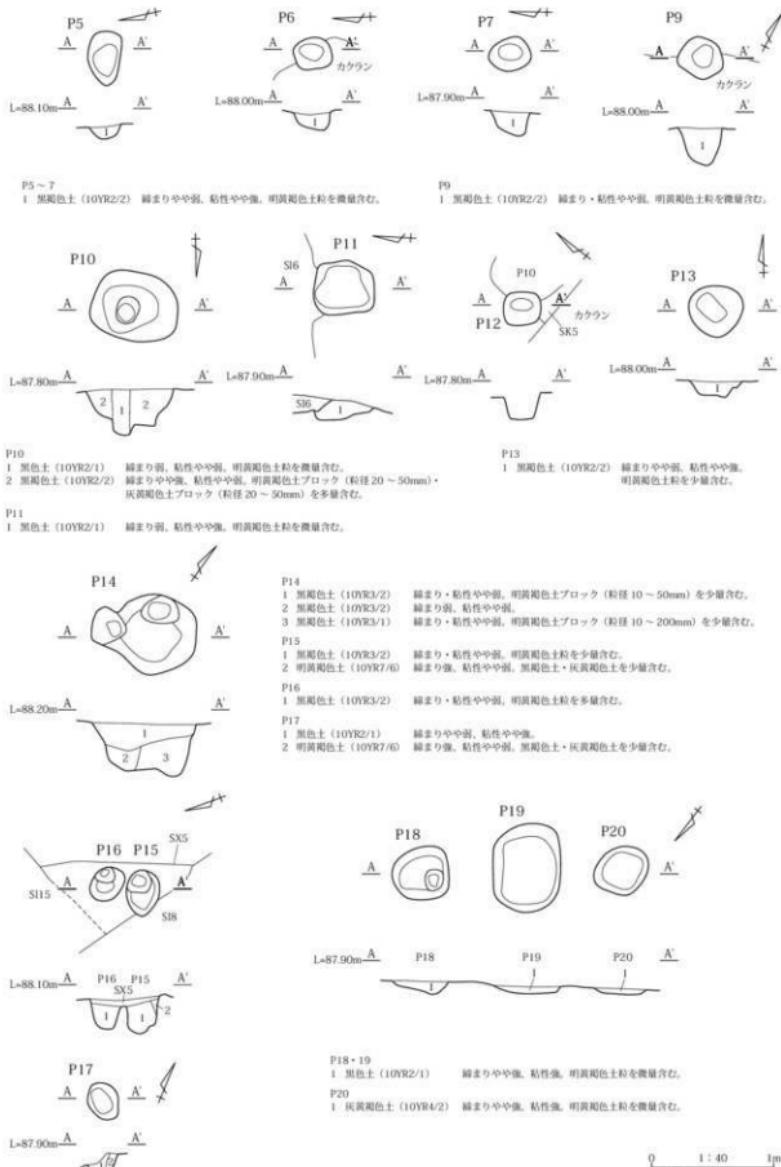
本遺跡で確認されたピットは31基（P1～7・9～32）で、竪穴建物跡・竪穴状遺構の底面や確認面で確認されたもの以外は全てVI層上面で確認された。P18～20はSX7の底面で確認されており、SX7に伴う遺構の可能性がある。P31は上層が地山に酷似した明黄褐色土で埋まっており、当初SI6-P2がオーバーハングしているものとして調査したが、整理段階で重複する別遺構と判断した。P32はSI11を掘り込んでいるピットであるが、壁面断面のみの検出である。調査したピットのうち大半は柱穴と考えられるが、調査面積が狭小であるため、掘立柱建物跡を認定することはできなかった。各ピットの詳細は、第2表を参照されたい。

## 第7節 その他の遺物（第36図、PL16）

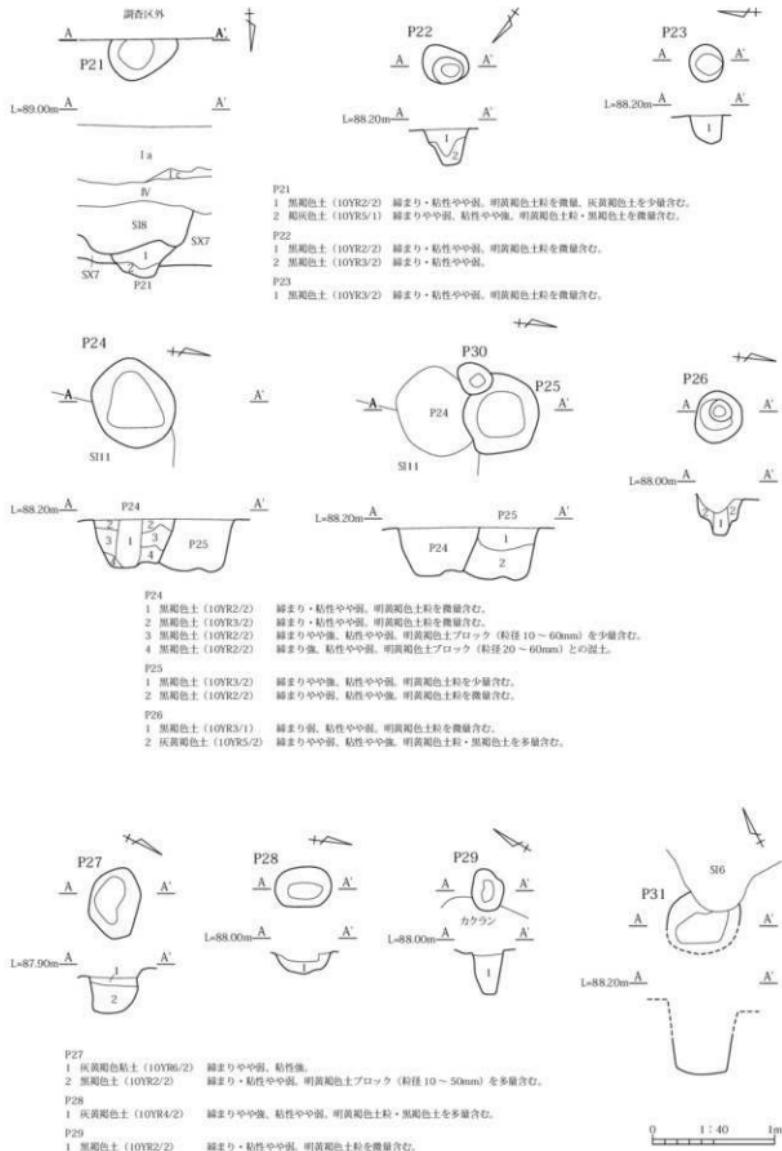
本節では、上記遺構から出土した遺物のうち、遺構の時期とは異なる年代の遺物を掲載する。91・92は縄文時代中期の深鉢片である。93・94は、櫛式の系譜を引く弥生系土器である。95は吉ヶ谷式の系譜を引く弥生系土器である。96は古墳時代前期古段階の壺の口縁部で、有段口縁に棒状の浮文が付けられている。



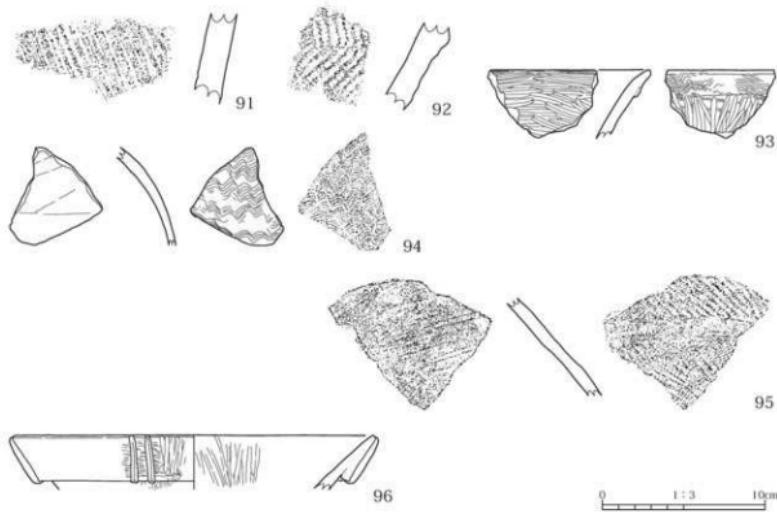
第33図 SK4～9、P1～4



第34図 P5 ~ 20



第35図 P21 ~ 31



第36図 その他の遺物

第2表 ピット観察表

No.	調査区	検出面	平面形	断面形状	幅幅 (m)			重複関係・備考
					長軸	短軸	深さ	
1	1区	—	円形	U字状	0.22	(0.16)	0.52	SK3より新。
2	2区・3T	VI層	楕円形	半円状	0.36	0.28	0.14	
3	1区	VI層	円形	半円状	0.51	0.46	0.29	上層および底面からII層出土。
4	1区	VI層	円形	U字状	0.34	0.30	0.32	朴樹跡あり。
5	2区・1T	VI層	円形	U字状	(0.45)	(0.27)	0.10	SK6・1より新。
6	2区・1T	VI層	円形	半円状	(0.30)	(0.26)	0.13	SK6・1より新。
7	2区・1T	—	円形	U字状	0.33	0.27	0.19	SK6より新。
8								欠番
9	1区	—	楕円形	U字状	(0.37)	(0.35)	0.30	SK10、SK2より新。
10	1区	VI層	楕円形	U字状	0.71	0.56	0.37	SK3、P12より新。柱痕跡あり。
11	1区	VI層	楕円形	圓状	(0.59)	0.43	0.16	SK6より古。
12	1区	VI層	円形	U字状	0.31	(0.27)	0.19	SK5、P10より古。
13	3区	VI層	円形	圓状	0.43	0.43	0.12	
14	3区	VI層	楕円形	圓的状	0.86	0.65	0.59	2基の柱穴からなる。腐り歴しか。
15	3区	—	楕円形	U字状	(0.38)	(0.27)	0.37	SK8、SK5より古。
16	3区	—	楕円形	U字状	(0.30)	(0.24)	0.37	SK3より古。
17	3区	—	円形	U字状	(0.31)	(0.26)	0.15	SK8より古。SK7より新。底面に土器片が擦かれる。
18	3区	—	円形	圓状	(0.46)	(0.43)	0.16	SK7底面で横切。
19	3区	—	楕円形	圓状	(0.72)	(0.55)	0.06	SK7底面で横切。
20	3区	—	楕円形	圓状	(0.47)	(0.37)	0.04	SK7底面で横切。
21	3区	—	円形	U字状	(0.58)	(0.32)	0.28	SK8より古。SK7より新。
22	3区	VI層	楕円形	U字状	0.38	0.31	0.29	
23	3区	VI層	円形	U字状	0.31	0.27	0.22	
24	3区	VI層	円形	U字状	(0.72)	(0.63)	0.39	SK11より古。P25・30より新。柱痕跡あり。
25	3区	VI層	円形	U字状	0.65	(0.62)	0.42	SK11、P24より古。P30と重複。
26	3区	—	円形	圓的状	0.43	0.37	0.30	SK11より古。
27	3区	—	楕円形	U字状	0.59	0.41	0.29	SK11より古。
28	3区	VI層	楕円形	半円状	0.46	0.33	0.17	
29	3区	VI層	楕円形	U字状	(0.34)	0.26	0.35	
30	3区	VI層	円形	U字状	(0.28)	(0.25)	0.46	P24より古。P25と重複。
31	1区	—	楕円形	U字状	(0.66)	(0.55)	0.62	SK4～7より古。
32	2区・1T	—	—	U字状	—	—	0.30	壁面断面のみ確認。SK1より新。

第3表 遺物観察表(1)

掲載 No.	種別 器種	出土 遺構	出土 位置	計測値 (cm・g) 製作 色調(外側・内側) / 造成	胎土	特徴・調整・文様等	
						外側	内側
1	土師器 高环	SI 1	検出面	口:(16.2) 高:(6.3) 底:- 环部 外:褐色 内:褐色 / 良好	石・長・闊・片 角・チ・粒	外面:口縁部ヨコナデ、ナデ。体部ナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。体~底部ナデ。	
2	土師器 环	SI 1	検出面	口:12.2 高:4.1 底:9.7 1/2 外:明赤褐色 内:深い赤褐色 / 良好	石・長・闊・角 小・粒	外面:口縁部ヨコナデ、横方向のヘラミガキ。体部ナデ。 底部ヘラケズリ。内面:ヨコナデ、ナデ後、放射状のヘラミガキ。	
3	土師器 環	SI 1	検出面	口:(20.0) 高:(7.0) 底:- 口縁~胴部上位 外:に深い褐色 内:に深い褐色 / 良好	石・長・闊・子	外面:口縁部ヨコナデ。頂部ナデ。胴部ヘラケズリ。内面: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	
4	土師器 環	SI 2	覆土	口:(13.4) 高:(10.0) 底:- 口縁~胴部 外:に深い褐色 内:に深い赤褐色 / 良好	石・長・闊・片 角・チ・粒	外面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	
5	土師器 高环	SI 3	覆土 SI 1 検出面	口:(16.0) 高:(4.8) 底:- 环部 外:褐色 内:褐色 / 良好	石・長・闊・角 子・粒	外面:口縁部ヨコナデ後、斜方向のヘラミガキ。体部ナデ。 内面:ヨコナデ後、放射状のヘラミガキ。	
6	土師器 环	SI 3	覆土	口:(13.0) 高:(5.5) 底:- 1/4 外:褐色 内:褐色 / 良好	石・闊・角・子 粒	外面:口縁部ヨコナデ、体~底部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ後、斜方向のヘラミガキ。体~底部ヨコナデ、ナデ後、放射状のヘラミガキ。	
7	土師器 環	SI 3	覆土	口:(13.0) 高:(7.1) 底:- 口縁~頂部 外:褐色 内:に深い褐色 / 良好	石・長・闊・角 子	外面:ヨコナデ後、縱方向のヘラミガキ。内面:口縁部ヨコナデ後、縱方向のヘラミガキ。頭部ナデ、指揮さえ。	
8	土師器 環	SI 3	No.1	口:15.5 高:24.5 底:5.3 脚付 外:に深い褐色 内:に深い褐色 / 良好	石・長・闊・チ 粒	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後、頭部ナデ。底 部ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。胴~底部ヘラナデ、ナデ。	
9	土師器 環	SI 3	検出面	口:(16.8) 高:(8.0) 底:- 口縁~胴部 外:に深い褐色 内:に深い褐色 / 良好	石・粒	外面:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、ヘラナデ。内面: ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	
10	土師器 高环	SI 4	No.2	口:17.9 高:(6.7) 底:- 环部/6 外:に深い赤褐色 内:褐色 / 良好	石・長・闊・角 子	外面:口縁部上位ヨコナデ。口縁部中位~体部ナデ。内面: 口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	
11	土師器 高环	SI 4	No.3	口:- 高:(7.5) 脚付:(10.5) 脚部ほぼ完全 外:浅黄褐色 内:浅黄褐色 / 良好	石・闊・角・子 粒	外面:脚部ナデ、脚部ヨコナデ。内面:脚部しづらナ デ。脚部ヨコナデ。	
12	土師器 高环	SI 4	覆土	口:- 高:(9.6) 脚付:(12.5) 脚部 外:に深い赤褐色 内:に深い褐色 / 良好	石・闊・角・子 粒	外面:脚部ヘラケズリ後、ナデ~ヘラミガキ。脚部ヨコナ デ後~ヘラミガキ。内面:脚部上端ナデ、脚部ヘラケズリ。 脚部ヨコナデ。	
13	土師器 高环	SI 4	覆土	口:- 高:(9.3) 脚付:(13.6) 脚部 外:に深い褐色 内:に深い褐色 / 良好	石・闊・角・子	外面:脚部ナデ、脚部ヨコナデ後。縦方向のヘラミガキ。 内面:脚部しづらナデ。脚部下端指揮さえ、ヘラナデ。脚部 ヨコナデ。	
14	土師器 環	SI 4	No.1	口:14.3 高:16.6 底:丸底 3/4 外:に深い褐色 内:に深い褐色 / 良好	石・長・子	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨ コナデ。胴部ヘラナデ。	
15	土師器 環	SI 4	覆土 SI 4・6 検出面	口:(23.7) 高:(15.6) 底:- 口縁~胴部 外:に深い褐色 内:に深い褐色 / 良好	石・粒・闊・角 子	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨ コナデ。胴部ヘラナデ。	
16	土師器 環	SI 5	覆土	口:(12.0) 高:(5.8) 底:- 口縁~胴部上位 外:灰黃褐色 内:に深い黄褐色 / 良好	石・長・闊・片 金芸・子	S字形口縁台付。外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズ リ後~ハケメ。内面:口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。外面に保 付着。	
17	土師器 高环	SI 6	No.3	口:- 高:(6.6) 脚付:9.8 脚部保存 外:に深い褐色 内:黒褐色 / 良好	石・長・闊・角 子	内外面:ヘラミガキ。内面に黒斑。	
18	土師器 高环	SI 6	P2	口:- 高:(6.2) 脚付:(8.5) 脚部1/2 外:赤褐色 内:明赤褐色 / 良好	石・長・闊・角 子	外面:ヘラミガキ。内面:环部ヘラミガキ。脚部ナデ、展 部ヨコナデ。外面と环部内面合体。及び脚部内面の一帯に 赤彩。	
19	土師器 环	SI 6	覆土	口:(13.4) 高:(4.1) 底:- 口縁~体部 外:に深い黄褐色 内:に深い褐色 / 良好	石・闊・角・子	外面:口縁部ヨコナデ。脚~台部ナデ。内面:口縁部ヨコ ナデ。脚~底部ナデ。台部ナデ。台端部折り返し。内面 焼付着。	
20	土師器 台付環	SI 6	No.4	口:(17.5) 高:29.5 台径:(10.9) 4/5 外:に深い黄褐色 内:に深い黄褐色 / 良好	石・長・角・雲 子	外面:口縁部ヨコナデ後ハケメ。脚部ナデ。内面:口縁部ヨ コナデ。脚~底部ナデ。台部ナデ。台端部折り返し。内面 焼付着。	
21	土師器 環	SI 6	No.1	口:16.0 高:(9.2) 底:- 口縁部ほぼ完全 外:に深い褐色 内:に深い褐色 / 良好	石・長・闊・子	外面:口縁部ヨコナデ後ハケメ。脚部ナデ。内面:口縁部ヨ コナデ。脚部ヘラナデ、ナデ。内外面に黒斑。	

第4表 遺物観察表(2)

掲載 No	種別 器種	出土 遺構	出土 位置	計測値 (cm・g) 四角 色調(外側・内側)/焼成	胎土	特徴・調整・文様等	
						外側	内側
22	土師器 甕	SI 6	上層	口:(12.0) 高:(5.0) 底:- 口縁一部上位 外:褐色 内:にい 黄褐色 /良好	石・長・凝・手 角・手	外面:口縁部ヨコナデ。胴部ハケメダナデ。内面:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内外面に保付着。	
23	土師器 台付鉢	SI 6	No.2	口:- 高:(11.0) 台径:11.0 底:一部 外:褐色 内:にい 黄褐色 /良好	石・長・凝・片 角・手	外面:体部ヘラナデ。台部ナデ・指押さえ。底部ヨコナデ。内面:体部ヘラナデ・ナデ。底部ヘラナデ・ナデ。瓶部ヨコナデ。	
24	土師器 甕	SI 6	覆土	口:(11.0) 高:(10.3) 底:- 口縁一部上位 外:赤褐色 内:明赤褐色 /良好	石・長・凝・片 角・手	小型。外側:口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。胴部ヘナナデ。	
25	土師器 甕	SI 6	上層	口:- 高:(8.9) 底:丸底 底部一部 1/2 外:にい 黄褐色 内:にい 黄褐色 /良好	長・凝・手 角・手	外面:ハケメダ後・ラミガキ。内面:頂部指押さえ。体部ハケメ後上位ナデ。底部ナデ。底部中央に粘土瘤あり。外面に黒斑。	
26	土師器 甕	SI 6	上層	口:(16.8) 高:(6.9) 底:- 口縁一部上位 外:にい 黄褐色 内:にい 黄褐色 /良好	石・長・凝・手 角・手	有段口縁。外面:口縁部ヨコナデ後。瓶方向のハラミガキ。胴部ヘラミガキ。内面:口縁部ヨコナデ。指押さえ。底部ナデ。	
27	土師器 甕	SI 6	上層	口:16.7 高:(8.4) 底:- 口縁一部上位 外:浅黄褐色 内:黄褐色 /良好	石・長・凝・手 角・手	有段口縁。外面:口縁部ヨコナデ。口縁部ハケメ・ナデ後、ラミガキ。瓶内面ハケメ・ナデ後、ラミガキ。	
28	土師器 甕	SI 6	覆土	口:(18.0) 高:(16.2) 底:- 口縁一部上位 外:褐色 内:褐色 /良好	石・長・凝・手 角・手	外面:口縁へ頂部ヨコナデ。胴部ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。瓶部指押さえ。胴部ヘラナデ。	
29	土師器 甕	SI 6	上層	口:- 高:(11.6) 底:(9.1) 制部下位 外:にい 黄褐色 内:灰黄褐色 /良好	石・長・凝・片 手	外面:胴部ヘラケズリ。内面:胴部ヘラナデ。内面に保付着。	
30	土師器 甕	SI 7	覆土	口:(15.0) 高:(4.6) 底:- 口縁一部上位 外:にい 黄褐色 内:にい 黄褐色 /良好	石・長・片・雪 手	外面:口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ。肩部に横斑のハケメ。内面:口縁部ヨコナデ。瓶部指押さえ。胴部ナデ。	
31	土師器 甕	SI 7	覆土	口:(22.0) 高:(5.5) 底:- 口縁一部上位 外:にい 黄褐色 内:にい 黄褐色 /良好	石・長・凝・片 手・粗	S字状口縁付属。外面:口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ。肩部に横方向のハケメ。内面:口縁部ヨコナデ。瓶部ハケメ。瓶部ナデ。	
32	土師器 高环	SI 8	No.5	口:17.7 高:15.4 脚径:(12.7) 4/5 外:暗赤褐色 内:赤褐色 /良好	石・凝・角・手	外面:口縁部ヨコナデナデ。口縁部下端ヘラケズリ後。瓶・斜方向のラミガキ。体部・脚部合接部ヘラケズリ後。脚部ナデ後。瓶・斜方向のラミガキ。内面:口縁部ヨコナデ後。放射状のラミガキ。脚部絞り瓶。瓶部絞り瓶・ヘラケズリ。瓶部ヨコナデ。	
33	土師器 高环	SI 8	No.14	口:16.5 高:(12.4) 底:- 3/4 外:明赤褐色 内:明赤褐色 /良好	石・長・凝・手	外面:口縁部ヨコナデ・ナデ後。瓶・斜方向のラミガキ。胴部ヘラミガキ。内面:口縁・体部ヨコナデ後。瓶・斜方向のラミガキ。底部ヘラミガキ。内面:口縁部ヨコナデ。瓶部ヘラミガキ。瓶部絞り瓶。ナデ。瓶部ヨコナデ。外面に黒斑。	
34	土師器 高环	SI 8	No.6	口:15.8 高:(6.4) 底:- 环部保存 外:褐色 内:褐色 /やや良好	石・長・凝・手	外面:口縁部ヨコナデ。体・脚部合接部ヘラケズリ後。ヘラミガキ。内面:口縁・体部ヨコナデ。底部ヘラミガキ。瓶部絞り瓶。ナデ。瓶部ヨコナデ。底部ナデ。	
35	土師器 环	SI 8	No.10	口:(13.0) 高:4.8 底:(7.6) 1/4 外:褐色 内:褐色 /良好	石・長・凝・角 手・粗	外面:口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後。放射状のラミガキ。底部ナデ。	
36	土師器 钵	SI 8	覆土 + 覆土	口:(11.8) 高:(4.6) 底:- 口縁一部 外:褐色 内:褐色 /良好	石・長・凝・角 手・赤	外面:口縁部ヨコナデ。体部ハケメ・ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。体部ナデ。器面剥落。	
37	土師器 甕	SI 8	覆土	口:(14.7) 高:19.5 底:6.5 1/2 外:黑褐色 内:褐色 /良好	石・長・凝・角 手・赤	有段口縁。外面:口縁部ヨコナデ。胴部ナデ後、ヘラミガキ。底部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。胴・底部ヘラナデ・ナデ。外面に黒斑、保付着。	
38	土師器 甕	SI 8	No.9	口:(24.7) 高:(8.8) 底:- 口縁部 外:にい 黄褐色 内:にい 黄褐色 /良好	石・長・凝・角 手	有段口縁。外面:口縁部ヨコナデ。ヨコナデ・ナデ。内面:ハケメ後、ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ。	
39	土師器 甕	SI 8	覆土 + SI6 蓋	口:(17.8) 高:(11.1) 底:- 口縁一部上位 外:灰褐色 内:灰褐色 /良好	石・長・片・手	外面:口縁部・瓶部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。外面に保付着。	
40	土師器 甕	SI 8	覆土・瓶方 + SI8 P1+ SX7 蓋	口:- 高:(20.5) 底:- 制部 外:暗赤褐色 内:にい 黄褐色 /良好	石・凝・角・手	外面:胴部上・中位条痕・下位ハケメ。内面:ヘラナデ・ナデ・指押さえ。内面保付着。	
41	土師器 甕	SI 8	No.3+4+ 12+ 13・覆土	口:29.0 高:25.2 底:(8.2) 3/4 外:にい 黄褐色 内:にい 黄褐色 /良好	石・長・凝・角 手	底部全孔。外面:口縁・颈部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ後、ヘラナデ・ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	

第5表 遺物観察表(3)

掲載 No.	種別 器種	出土 遺構	出土 位置	計測値 (cm × g) 製作 色調(外側・内側) / 造成	胎土	特徴・調整・文様等
42	石器 砥石	SI 8	掘方	長:19.5 幅:11.1 厚:5.0 重:1754.6		刃物砥石。流紋岩。
43	石器 棒状加工品	SI 8	No.7	長:(18.9) 幅:(8.0) 厚:(5.7) 重:1315.0		下端と右側に弱い敲打痕あり。右側と下端にスス付着。結晶片岩。
44	石器 砥石	SI 8	掘方	長:9.6 幅:2.8 厚:2.4 重:109.7		全面にスス付着。凝灰岩。
45	石製品 石製機造品	SI 8	No.1	長:4.9 幅:1.2 厚:0.4 重:3.0		削形。右側面は再加工面であり、本來の器軸は現状の2倍あったと考えられる。結晶片岩。
46	土師器 壺	SI 10	覆土	口:(13.7) 高:(8.7) 底:— 口縁～胴部 外:に赤褐色 内:に赤褐色 / 良好	石・長・闊・角・手	外面:口縁部ハラメ後、ヨコナデ・指押さえ。胴部工具痕、胴部ハケヌ。内面:口縁部ヨカナデ・ナデ。胴部ヘラナデ・ナデ、外面と内面口縁部に擦付着。
47	土師器 壺	SI 10	覆土	口:— 高:(9.3) 底:(6.8) 胴～底部 外:に赤褐色 内:に赤褐色 / 良好	石・闊	外面:胴部ヘラミガキ。底部チヂ。内面:ナデ。外面に黒斑。
48	土師器 壺	SI 10	覆土	口:— 高:(16.5) 底:— 口縁～胴部 外:に赤褐色 内:に赤褐色 / 良好	石・長・闊・角・手	外面:胴部ヨカナデ。胴部ト位横の無筋縞文(L)。胴部中位ハラメ後、腹方向のヘラミガキ。内面:強部ヘラミガキ。胴部上ナデ・指押さえ。胴部ヘラナデ。外側の縞文部以外と内面底部に赤褐色。
49	土師器 高环	SI 11	前方 + SI 6 覆土	口:(18.2) 高:(5.3) 底:— 环部 外:褐色 内:褐色 / 良好	石・長・闊・角・手・赤	外面:ヨコナデ後、斜方向のヘラミガキ。内面:ヨコナデ・ナデ後、放射状のヘラミガキ。
50	土師器 壺	SI 11	No.2	口:(15.5) 高:(7.5) 底:— 口縁～胴部上位 外:褐色 内:褐色 / 良好	石・長・闊・角・手・赤	段段口縁。外面:口縁～頂部ヨカナデ。胴部ハケヌ。内面:口縁部ヨカナデ。胴部ナデ・指押さえ。
51	土師器 壺	SI 11	No.1	口:— 高:(5.6) 底:3.0 体部完全 外:に赤褐色 内:に赤褐色 / 良好	石・長・闊・角・手・赤	小型。外面:口縁部ヨカナデ。体部上ナデ。下へラケズリ。底部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨカナデ。体～底部ナデ。外面に黒斑。
52	石製品 石製機造品	SI 11	覆土	長:(3.6) 幅:(1.8) 厚:0.4 重:3.5		形態は不明。結晶片岩。
53	土師器 高环	SI 13	No.5	口:— 高:(9.4) 脚径:(8.1) 环部下平～脚部 外:明赤褐色 内:明赤褐色 / 良好	石・長・闊・片・手	脚部3方に透孔。外面:脚部斜・横方向のヘラミガキ。脚部裏方のヘラミガキ。脚部ハケヌ。内面:脚部ヘラミガキ。脚部上・端しばり縫。上位ナデ・中・下位ハケヌ。
54	土師器 高环	SI 13	No.1	口:19.1 高:(6.9) 底:— 外:に赤褐色 内:に赤褐色 / 良好	石・闊・角・手	外面:口縁部ヨカナデ後、斜方向のヘラミガキ。体部ナデ。内面:ヨコナデ・ナデ後、放射状ヘラミガキ。
55	土師器 壺	SI 13	No.3	口:— 高:(6.9) 底:5.8 脚～底部 外:に赤褐色 内:赤褐色 / 良好	石・長・闊・角・手	單孔。焼成前穿孔。外面:ナデ。内面:脚部ヘラナデ。底部ナデ。
56	土師器 壺	SI 14	No.12	口:16.3 高:6.4 底:4.6 体部完全 外:褐色 内:褐色 / 良好	石・闊・角・手	外面:口縁部ヨカナデ。体部ヘラケズリ後、横・斜方向のヘラミガキ。底部ヘラケズリ。内面:ヨコナデ・ナデ後、放射状ヘラミガキ。外側に黒斑。
57	土師器 壺	SI 14	No.17	口:12.9 高:5.3 底:丸底 完全 外:明赤褐色 内:明赤褐色 / 良好	石・闊・角・手	外面:口縁部ヨカナデ。体・底部ヘラケズリ。内面:ヨコナデ・ナデ後、放射状のヘラミガキ。
58	土師器 壺	SI 14	No.3	口:14.0 高:5.1 底:丸底 完全 外:褐色 内:褐色 / 良好	石・長・闊・角・手	外面:口縁部ヨカナデ。体・底部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨカナデ。体・底部ナデ後、ヘラミガキ。外面に黒斑。
59	土師器 器台	SI 14	No.13+15	口:— 高:(13.0) 底:(16.8) 2/3 外:に赤褐色 内:明赤褐色 / 良好	石・長・針・闊・角・手・片・金雲・刷毛・手	底部に透孔。焼成後穿孔2ヶ所。未貫通孔1ヶ所。内面中央部に凹み。外面:口縁部ヨカナデ。脚部ナデ後、範万向のヘラミガキ。脚部ヨカナデ。内面:口縁・脚部ヨカナデ。底部ナデ・脚部しばり縫。脚部ハケヌ後、ヨコナデ。
60	土師器 壺	SI 14	No.14	口:(24.0) 高:(6.2) 底:— 口縁～体部 外:に赤褐色 内:灰褐色 / 良好	石・長・闊・角・手	外面:口縁部ヨカナデ。体部ヘラケズリ。内面:ヨコナデ・指押さえ。体部ヘラナデ・ナデ。
61	土師器 壺	SI 14	No.11	口:7.0 高:8.4 底:4.4 ほぼ完全 外:に赤褐色 内:に赤褐色 / 良好	石・長・闊・角・手・根	外面:口縁部ヨカナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨカナデ。体・底部ナデ・指押さえ。外面に黒斑。

第6表 遺物観察表(4)

掲載 No	種別 器種	出土 遺構	出土 位置	計測値 (cm・g) 製作 色調(外側・内側)/焼成	胎土	特徴・調整・文様等
62	土師器 甕	SI 14	No.8	口:(13.5) 高:16.4 底:6.5 外:褐色 内:褐色 / 良好	石・長・闊・角・ 子・粗	外面:口縁・腹部ヨコナデ。胴部上平ナデ。下平ヘラケ ズリ。底部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。腹部崩 さえ。脚・底部ヘラナデ・ナデ。
63	土師器 甕	SI 14	No.5	口:一 高:(21.4) 底:一 外:赤褐色 内:赤褐色 / 良好	石・長・闊・雲・ 子	外面:ヘラナデ・ナデ。内面:ヘラナデ・ナデ・崩押さえ。
64	土師器 甕	SI 14	No.5	口:一 高:(16.0) 底:一 外:に赤い褐色 内:に赤い褐色 / 良好	石・長・針・闊・ 片・角・雲・子	外面:ヘラケズリ。内面:ヘラナデ。
65	土師器 甕	SI 14	No.9	口:18.4 高:(14.3) 底:一 外:口縁部~胴部上平 内:に赤い褐色 内:に赤い褐色 / 良好	石・長・闊・子・ 粗	外面:口縁・腹部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面:口縁部 ヨコナデ。胴部ヘラナデ。
66	土師器 甕	SI 14	No.4	口:18.3 高:3.47 底:(6.4) 1/3 外:に赤い褐色 内:に赤い褐色 / 良好	石・長・闊・子・ 粗	外面:口縁・腹部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ後、ヘラナデ・ ナデ。底部ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。脚・底部ヘラナデ。 外面上黒斑・煤付着。
67	土師器 甕	SI 14	No.1	口:14.9 高:(27.2) 底:一 2/3 外:に赤い褐色 内:に赤い褐色 / 良好	石・長・闊・片・ 子	外面:口縁部ヨコナデ。腹部ヘラケズリ後。上平ヘラナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。腹部崩押さえ。胴部ヘラナデ・ナデ。
68	土師器 有孔甕	SI 14	No.2	口:19.2 高:11.8 底:2.8 4/5 外:に赤い褐色 内:褐色 / 良好	石・長・針・闊・ 片・削ぎ・子	底部全孔。外面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面: 口縁部折り返し・ヨコナデ・崩押さえ。体部ヘラナデ・ナデ。 内面上黒斑・煤付着。
69	土師器 甕	SI 14	No.10	口:18.5 高:23.5 底:7.4 2/3 外:に赤い褐色 内:灰褐色 / 良好	石・長・闊・片・ 削ぎ・子	底部全孔。外面:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面: ヘラナデ・ナデ。外面上黒斑。
70	土師器 甕	SI 15	SI 15-SK2	口:(18.0) 高:25.8 底:8.0 1/3 外:灰褐色 内:に赤い褐色 / 良好	石・長・闊・角・ 子	外面:口縁部ヨコナデ・脚・底部ヘラケズリ。内面: 口縁部ヨコナデ。脚部崩押さえ。脚・底部ヘラナデ・ナデ。 内面上黒斑。
71	土師器 甕	SI 15	SK3 + P3	口:(14.0) 高:5.7 底:(6.1) 1/4 外:褐色 内:褐色 / 穴や良好	石・闊・角・子	外面:口縁部ヨコナデ。体部ナデ後、ヘラミガキ。体部下 端・底部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。体・底部ナ デ後、致射状のヘラミガキ。
72	土師器 甕	SI 15	No.5	口:一 高:(7.2) 底:2.0 外:に赤い褐色 内:灰褐色 / 良好	石・長・闊・角・ 子	外面:口縁部ヨコナデ。体部上・中位ナデ。体部下位・底 部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。体・底部ナデ。
73	土師器 甕	SI 15	SK2	口:(6.4) 高:5.8 底:3.6 1/3 外:褐色 内:に赤い褐色 / 良好	石・闊・角・子・ 粗	外面:口縁部ヨコナデ。体・底部ナデ。内面:口縁部ヨコ ナデ。体・底部ナデ。
74	石製品 勾玉・玉類	SI 15	SK2	長:(2.0) 幅:(1.2) 厚:(0.6) 重:1.9		穿孔時の欠損か。チャート。
75	土師器 甕	SX 4	No.1	口:10.8 高:6.0 底:丸底 外:褐色 内:褐色 / 良好	石・闊・角・子・ 粗	外面:口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ。体部中位~底位ヘ ラケズリ。体部下位・底間に工具痕あり。内面:口縁部ヨ コナデ。体・底部ヘラミガキ。放射状のヘラミガキ。
76	土師器 甕	SX 4	No.4+5 覆土・脚方	口:16.7 高:(27.0) 底:一 口縁~胴部 外:に赤い褐色 内:褐色 / 良好	石・長・針・闊・ 片・削ぎ・子・ 赤	有段口縁。外面:口縁・脚部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面: 口縁部ヨコナデ。脚部崩押さえ。胴部ヘラナデ・ナデ。
77	土師器 高杯	SX 7	覆土	口:(11.0) 高:(4.8) 底:一 外:褐色 内:褐色 / 良好	石・長・闊・角・ 手・赤	外面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、横・斜め方向 のヘラミガキ。内面:口縁部ヨコナデ。体部ナデ後、口縁・ 体部縦・斜め方向のヘラミガキ。底部ヘラミガキ。外面上黒斑。
78	土師器 高杯	SX 7	覆土	口:一 高:(6.8) 底:一 脚部:1/2 外:褐色 内:に赤い褐色 / 良好	石・闊・角・子・ 粗	脚部3方に透孔。外面:脚部横のヘラミガキ。内面:脚部 ヘラミガキ。脚部ナデ。脚部縦方向のヘラミガキ。
79	土師器 高杯	SX 7	覆土	口:一 高:(5.0) 脚径:9.7 脚部ほぼ完全 外:褐色 内:に赤い褐色 / 良好	石・長・闊・角・ 子	脚部3方に透孔。外面:脚部横のヘラミガキ。内面:脚部 ヘラナデ・ナデ。脚部ヨコナデ。
80	土師器 有孔甕	SX 7	No.4	口:(21.4) 高:(8.4) 底:一 口縁~体部 外:黄褐色 内:黄褐色 / ゆや良好	石・長・闊・角・ 子	外面:口縫部キザミ。口縁部ヨコナデ。体・脚部ヘラミガ キ。内面:口縫・体部ヘラミガキ。底・脚部ナデ。外面・ 脚部と内面口縫部に赤点。
81	土師器 脚付甕	SX 7	No.1	口:(13.9) 高:(14.2) 底:一 3/4 外:赤褐色 内:に赤い褐色 / 良好	石・闊・角・子	5.5口径縫合付甕。外面:口縫部ヨコナデ。胴部ハケメ・ 肩部に横方向のハケメ。内面:口縫部ヨコナデ。脚部ハケ メ。脚部ナデ。外面上黒斑。
82	土師器 甕	SX 7	覆土	口:(15.1) 高:(6.5) 底:一 外:暗褐色 内:に赤い褐色 / 良好	石・長・闊・角・ 子	

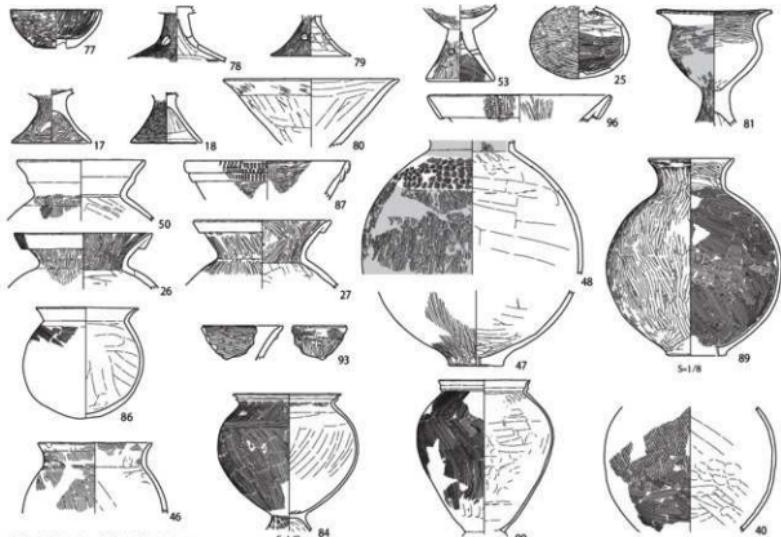
第7表 遺物観察表(5)

掲載 No	種別 器種	出土 遺構	出土 位置	計測値 (cm × g) 製作 色調(外側・内側)/焼成	胎土	特徴・調整・文様等
83	土師器 甕	SX 7	No.2	口:17.6 高:(9.7) 底:- 外:灰褐色 内:に赤い黄褐色 /良好	石・長・瀬・片・ 角・網目・子	S字状口縁台付甕。外面:口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、 肩部に横方向のハケメ、内面:口縁部ヨコナデ。頭部指押 さえ。網目ナデ。外面上に櫛付着。
84	土師器 甕	SX 7	No.2	口:17.5 高:(22.5) 底:- 外:に赤い黄褐色 内:に赤い黄褐色 /良好	石・長・瀬・片・ 子	S字状口縁台付甕。外面:口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、 肩部に横方向のハケメ、内面:口縁部ヨコナデ。頭部指押 さえ。網目ナデ。外面上に櫛付着。
85	土師器 台付甕	SX 7	No.2	口:- 高:(5.5) 台径:8.0 台部は既完存 外:明赤色 内:橙色 /良好	石・長・瀬・角・ 子	外面:ハケメ、内面:底部ハケメ。台接合部ナデ。台部ハケメ、 外面上にハケメ。
86	土師器 甕	SX 7	No.2	口:(12.5) 高:13.7 底:2.6 1/2 外:橙色 内:橙色 /良好	石・長・瀬・角・ 子	外面:口縁部ヨコナデ。胴部上位ハケメ。胴部中位~底部 ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。胴・底部ハラナデ・ナデ。台部 ナデ。内外面上に櫛付着。
87	土師器 甕	SX 7	覆土	口:(19.8) 高:(4.8) 底:- 口縁部 外:に赤い褐色 内:に赤い褐色 /良好	石・瀬・角・子	複合口縁。外面:有段部にヨコナデ後、キザミ。口縁部ハ ラミガキ。内面:横方向のハラミガキ。
88	土師器 甕	SX 7	No.3	口:13.7 高:32.3 底:(9.9) 3/4 外:に赤い褐色 内:明赤褐色 /良好	石・長・瀬・角・ 子・粒	外面:口縁部ハケメ・ヨコナデ後、竪方向のヘラミガキ。 胴部ハケメ後、最・横方向のハラミガキ。底部ナデ。内面: 口縁部ハケメ・ヨコナデ後、横方向のヘラミガキ。胴・底 部ハケメ。外面上に黒斑。
89	土師器 甕	SX 6	No.1	口:(14.8) 高:(25.1) 底:- 1/4 外:に赤い褐色 内:に赤い褐色 /良好	石・長・瀬・角・ 子	S字状口縁台付甕。外面:口縁部ヨコナデ。胴部ハラケズ り後ハケメ、胴部下端部ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。頭部 指押さえ。網目ハラナデ・ナデ・指押さえ。
90	土師器 甕	SD 2	No.1	口:8.4 高:8.8 底:4.3 既完存 外:橙色 内:明赤褐色 /良好	石・長・瀬・角・ 子	小型。外面:口縁・預部ヨコナデ。底部上平ナデ。底部下平 部ハケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。体・底部ナデ。
91	繩文土器 深鉢	SI 8	覆土	口:- 高:(5.6) 底:- 胴部は既 外:に赤い黄褐色 内:橙色 /良好	石・瀬・角・子	加賀利Ⅲ式。外面:平截竹質による集合沈線。内面:ナデ。
92	繩文土器 深鉢	SI 3	覆土	口:- 高:(5.3) 底:- 胴部は既 外:に赤い黄褐色 内:橙色 /良好	石・長・瀬・角・ 子	加賀利Ⅲ～Ⅳ式。外面:既・圓文。内面:ナデ。
93	弥生系土器 甕	SI 4	SI 4・6 横出面	口:- 高:(4.2) 底:- 口縁部 外:に赤い褐色 内:橙色 /良好	石・長・角・子	標式系。有段口縁。外面:口縁有段部ハケメ後波状文(9条)、 口縁部横方向のハラミガキ。内面:横・斜方向のヘラミガキ。
94	弥生系土器 甕	SI 6	上層	口:- 高:(6.0) 底:- 胴部は既 外:に赤い褐色 内:に赤い褐色 /良好	石・長・瀬	標式系。外面:ナデ後。波状文。内面:ヘラナデ・ナデ。 外面上に櫛付着。
95	弥生系土器 甕	SI 6	上層	口:- 高:(6.0) 底:- 胴部は既 外:浅黄褐色 内:浅黄褐色 /良好	石・長・子	吉ヶ谷式。外面:横位圓文(直前段回転、RRL)。横位に崩削。 内面:横・斜方向のヘラミガキ。
96	土師器 甕	SI 4	SI 4・6 横出面	口:(22.0) 高:(3.3) 底:- 口縁部 外:に赤い褐色 内:に赤い褐色 /良好	石・長・瀬・子・ 相	有段口縁。外面:棒状浮文2ヶ所残存。ハケメ・ヨコナデ後、 有段部に横方向のヘラミガキ。内面:横方向のヘラミガキ。

## 第VI章　まとめ

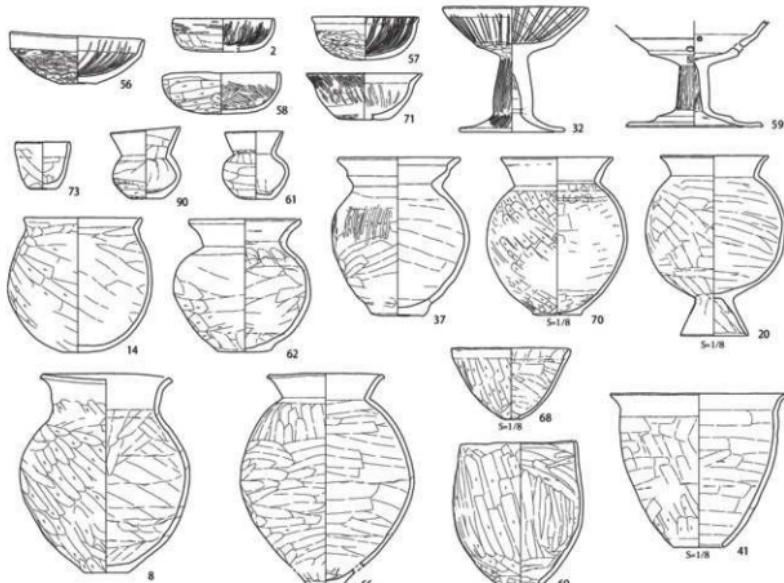
中居町一丁目遺跡第5次調査（以下、第5次調査）では、竪穴建物跡15軒（SI1～8・10～16）、竪穴状遺構3基（SX3・5・7）、カマド1基（SX4）、性格不明遺構3基（SX1・2・6）、溝3条（SD1～3）、土坑8基（SK2～9）、ピット31基（PI～7・9～32）が検出された。確認された竪穴建物跡・竪穴状遺構・カマドは全部で19基であるが、このうち土層断面のみで確認されたSI16や、遺構のごく一部のみが検出されたSI7・12、SX3・5など、遺構の全容が不詳なものも多い。調査区西側から中央にかけては遺構が多く重複も激しいが、東側は擾乱が多いせいいか遺構数が少ない傾向にある。遺構の時期が判明している竪穴建物跡・竪穴状遺構・カマドのうち、古墳時代前期のものが4基（SI5・7・10、SX7）、古墳時代中期のものが10基（SI1～4・6・8・11・14・15、SX4）である。出土遺物はほとんどが弥生土器の系譜を引く土器や古墳時代前期～中期のもので、縄文土器・弥生土器が若干混じるもの、古墳時代後期以降の遺物はほぼ出土していない（第37・38図）。本章では、今回の発掘調査の成果を踏まえた上で、古墳時代における上中居町・中居町一丁目地区の様相を述べる。

まず、遺跡が立地する地形について見ていく。第39図は、明治18年作成の迅速図に諏訪神社などの寺社の位置をプロットし、用水路をトレースしたものである<sup>(註1)</sup>。これを見ると高崎駅の東側は大半が水田地帯と表記されているが、高閑村から下中居村方面までは北西～南東方向に村落・畠が広がっており、微高地であることが分かる。この水田地帯を潤す長野堰は岩押村～高閑村間で三方面に分流しており、地狱堰は高閑村を通って東流、矢中堰は前述の微高地の中央付近を南東流、倉賀野堰は水田地帯を南北流している。上中居村の諏訪神社の北東には本遺跡が、その北隣には国道354号整備事業に伴う発掘調査区<sup>(註2)</sup>が位置し、これらは矢中堰が流れる微高地の北東縁にあたる。極楽寺の東隣では、微高地を南北に縱断する形で環状線



\*特に記載のない遺物の縮尺は1/6

第37図 主要出土遺物（古墳時代前期中心）



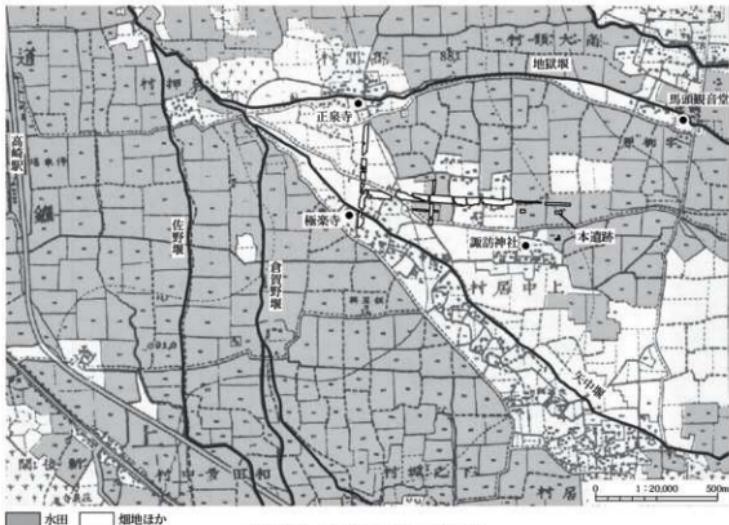
\*特に記載のない遺物の縮尺は1/6

第38図 主要出土遺物（古墳時代中期中心）

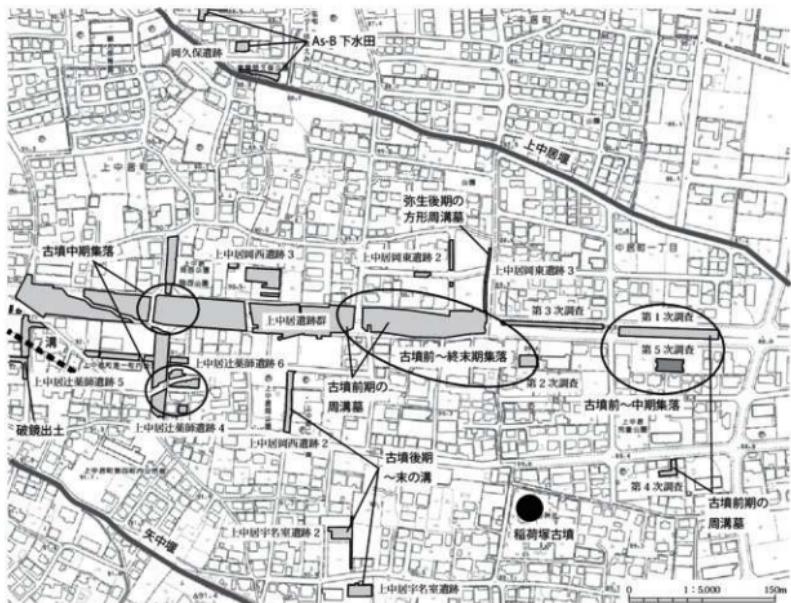
建設に伴う発掘調査<sup>(註3)</sup>が行われ、弥生時代～中世の遺構・遺物が確認されている。

次に本遺跡周辺の調査成果を踏まえて、上中居町・中居町一丁目地区の古墳時代の様相をみていく。第40図は、五千分の一に縮小した都市計画基本図上に、上中居町・中居町一丁目地区の遺構展開状況を記載したものである<sup>(註4)</sup>。東から見ていくと、中居町一丁目遺跡第1次・第5次調査を中心に古墳時代前期～中期の集落が広がっており、第1次調査区東端では前期の方形周溝墓が1基確認されている。集落の時期としては、第1次調査では前期の遺構が圧倒的に多いのに対して、第5次調査では中期の遺構の方が多い。調査範囲が狭いため確かなことはいえないが、前期集落の範囲と中期集落の範囲は若干ずれている可能性がある。また、第1次調査に比べ第5次調査の遺構密度の方が高いことから、集落域の中心は更に南の上中居児童公園付近である可能性が考えられる。第4次調査で前方後方形周溝墓が確認されているが、この墓が集落と隔離した墓域内に立地しているのか、集落内に立地しているのか、今後の検討課題であろう。この集落の北から東にかけて上中居塙が流れており、この水路付近から北方・東方は完全に低地となり、水田が広がっていたものと推測される。

上中居遺跡群（高崎市第232集）の東側を中心とする範囲<sup>(註5)</sup>では、上中居岡東遺跡3（高崎市第381集）において弥生時代後期の方形周溝墓が確認されているほかは、古墳時代前期～終末期の集落が広がっている。上中居遺跡群内で前期の方形周溝墓が2基確認されていることから、この時期は居住域と墓域が未分離の状態であった可能性が高く、これは前述の第1・5次調査の集落でも同様のことがいえる。このエリアの南・南西で後期～終末期の溝が検出されていることに加え、上中居宇名室遺跡2（高崎市第376集）では後期～終末期の竪穴建物跡が2軒確認されていることから、後期以降は南側に集落が展開していった



第39図 高崎駅東側土地利用図



第40図 上中居町・中居町一丁目周辺遺跡の内容

可能性がある。これらの溝の走向方向は南北方向ないし東西方向を指向しており、後述する上中居辻薬師遺跡5（高崎市第258集）などで検出された溝とは方向が異なる。

上中居遺跡群中央部と上中居辻薬師遺跡4（高崎市第258集）・6（高崎市第249集）付近にも、古墳時代中期の竪穴建物跡群が2ヶ所<sup>(註1)</sup>確認されている。調査範囲が狭いため明確なことはいえないが、古墳時代中期には、このエリアまで集落群が拡大していた可能性がある。これより西側は図の範囲からは外れるが、矢中堰と似た方向の前期～中期の大形溝が複数ある区域となり、古墳時代の集落は確認されなくなる。上中居辻薬師遺跡5においてこの大形溝が検出されている他、古墳時代中期のものと想定されている溝から勾玉・管玉・破鏡が出土しており、集落域の境界付近において何らかの祭祀行為が行われたと考えられる。

このように上中居町・中居町一丁目地区は、第39図左端の北西～南東方向の大形溝が複数走る区域とそれ以外の集落域に大別され、さらに集落域は遺構密度が希薄なエリアを挟んで複数箇所に分かれているようである。上中居遺跡群東側のみ古墳時代を通して集落が営まれているが、これ以外は限定的な時期幅で集落が営まれていたようである。この地区は国道354号整備事業に伴う発掘調査などが行われてきたこともあり、東西方向での遺跡の様相はかなり判明してきている。今後周辺での調査が進むことによって、南北方向での遺跡の様相、特に上中居遺跡群の南側に存在すると思われる後期～終末期の集落の状況が判明していくことに期待したい。

(註1) 第39図の中の調査区は、中居町一丁目遺跡第1～5次調査、上中居遺跡群、上中居辻薬師遺跡1・2、高岡村前遺跡1・2、高岡東沖、村前遺跡の調査区である。

(註2)『中居町一丁目遺跡』(2007)、『中居町一丁目遺跡3』(2010)、『上中居遺跡群』(2009)。

(註3)『上中居辻薬師遺跡』(1989)、『上中居辻薬師遺跡II』(1992)、『高岡村前・村前II・東沖遺跡』(1995)、『高岡坂村遺跡』(1992)など。

(註4) 第40図は「上中居岡東遺跡3・高岡村前遺跡3」(2017)の第23図を参考に作成したもので、集落の範囲線などは本報告における推定線である。なお、中居町一丁目遺跡は「第〇次調査」とのみ表記した。遺跡名を記載していない調査区は、上中居遺跡群の調査区である。上中居遺跡群の調査区名については、「上中居遺跡群」(2009)を参照されたい。

(註5) 上中居遺跡群4区東端及び5区から中居町一丁目遺跡第2次調査区にかけての範囲である。第2次調査では6世紀末～7世紀初頭の竪穴建物跡が1軒の他、古墳時代前期の遺物や平安時代の溝などが検出されている。

(註6) 上中居遺跡群2区東端から3区西端にかけて、上中居遺跡群6区から上中居辻薬師遺跡4・6次調査にかけての2ヶ所である。

#### 主要引用・参考文献

高崎市市史編さん委員会『新編 高崎市史 資料編1』1999

高崎市市史編さん委員会『新編 高崎市史 資料編2』2000

高崎市文化財調査報告書第101集『上中居辻薬師遺跡』1989 高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第122集『上中居辻薬師遺跡II』1992 高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第135集『高岡村前・村前II・東沖遺跡』1995 高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第232集『上中居遺跡群』2009 高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第249集『上中居辻薬師遺跡3』2009 高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第255集『中居町一丁目遺跡2』2010 高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第258集『上中居遺跡群2』2010 高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第376集『上中居名室遺跡2』2016 高崎市教育委員会・株式会社シンテクニカル

高崎市文化財調査報告書第380集『中居町一丁目遺跡4』2017 高崎市教育委員会・ナイスホーム株式会社・有限会社毛野考古学研究所

高崎市文化財調査報告書第381集『上中居岡東遺跡3・高岡村前遺跡3』2017 高崎市教育委員会

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第314集『中居町一丁目遺跡』2007 県土整備局高崎土木事務所・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第509集『中居町一丁目遺跡3』2010 群馬県高崎土木事務所・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第681集『高崎競馬場遺跡(2)』2021 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・群馬県

写 真 図 版





1・2区遠景（東から）



3区全景（東から）



SI1 全景（北西から）



SI2 全景（北から）



SI3 全景（南から）



SI4 掘方完掘（西から）



SI5 全景（東から）



SI6 (2区-1T内) 炭化物検出状況（東から）



SI6 遺物（No.20）出土状況（北東から）



SI6 (I区部分) 炭化物検出状況 (西から)



SI6 炭化物検出状況 (南西から)



SI6 完掘 (垂直)



SI7 全景 (南から)



SI8 カマド全景 (東から)



SI8 摂方完掘 (東から)



SI10 全景 (北東から)



SI11 焼土範囲（北から）



SI11 挖方完掘（東から）



SI12 全景（北から）



SI13 遺物（No.54）出土状況（北東から）



SI13 全景（南東から）



SI14-SK1 遺物出土状況（東から）



SI14 遺物出土状況（東から）



SI14 カマド全景（北東から）



SI14 全景（北東から）



SI14-SK3 遺物出土状況（南から）



SI15 遺物出土状況（南から）



SI15 全景（南東から）



SX3 完掘（西から）



SX4 検出状況（北東から）



SX4 全景（北西から）



SX5 完掘（南西から）



SX7 遺物（No.88）出土状況（北から）



SX7 完掘（北東から）



SX1 完掘（北東から）



SX2 完掘（南東から）



SX6 セクション（北から）



SD2 完掘（東から）



SD3 完掘（北から）



SK2 完掘（東から）



SK3 完掘（南から）



SK8 完掘（西から）



SK9 完掘（東から）



P3 完掘（北から）



P7 遺物出土状況（西から）



P10 セクション（北から）



P14 完掘（南東から）



P24・25・30 完掘（東から）



SI1 出土遺物



SI2 出土遺物



SI3 出土遺物



SI4 出土遺物 (1)



14



15



16

SI4 出土遺物 (2)

SI5 出土遺物



17



18



19



20



21



22



23



24



25

SI6 出土遺物 (1)



26



27



28



29

SI6 出土遺物 (2)



30



31

SI7 出土遺物



33



32



34

SI8 出土遺物 (1)



35



37



38



36



39



40



41



42



43



44



45



46



47



48

SI10 出土遺物



49



50



51



52

SI11 出土遺物



53



54



55

SI13 出土遺物



56



57



58

SI14 出土遺物 (1)



59



60



61



62



63



64



65



66



67



68



69

SI14 出土遺物 (3)



70



71



72



73



74

SI15 出土遺物



75



76

SX4 出土遺物



77



78



79



80



81



82



83



84



85



86



87



88



89

SX6 出土遺物



90

SD2 出土遺物



91



92



93



94



95



96

その他の遺物

## 報告書抄録

フリガナ	ナカイマチイッショウメイセキ5
書名	中居町一丁目遺跡5
副書名	集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
卷次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第475集
編著者名	菊池康一郎
編集機関	株式会社シン技術コンサル
所在地	〒370-1135 群馬県佐波郡玉村町板井311-1
発行年月日	2022年6月30日

所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	道路					
中居町一丁目 遺跡5	高崎市中居町 1丁目8番地3号	102024	832	36° 19' 15"	139° 02' 11"	2021.11.1 ～ 2021.12.24	249m <sup>2</sup>	集合住宅 建設

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中居町一丁目 遺跡5	集落	古墳時代	竪穴建物跡 竪穴状遺構 ほか	土師器・石製品 ほか	
要約	高崎市東部の井川野低地帯右岸縁辺の微高地上に立地する遺跡で、古墳時代前～中期の集落跡を調査した。周辺では古墳時代前～終末期の集落の他、弥生時代後期～古墳時代前期の周溝墓が複数調査されており、それらの遺構群との関連が想定される。				

## 中居町一丁目遺跡5

－集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－

令和4年6月29日 印刷

令和4年6月30日 発行

編集／株式会社シン技術コンサル

群馬県佐波郡玉村町板井311-1 電話 0270-65-2777

発行／高崎市教育委員会

群馬県高崎市高松町35番地1 電話 027-321-1291

印刷／細谷印刷有限会社

